

附属資料一覧

附属資料1	位置図	P. 17
附属資料2	現況配置図	P. 19
附属資料3	現況写真	P. 21
附属資料4	石巻好文館高等学校 学校要覧(平成27年度版)	P. 23
附属資料5	宮城の将来ビジョン・震災復興・地方創生実施計画 (再生期:平成26年度~29年度)【平成28年度版】〔一部抜粋〕	P. 53
附属資料6	宮城県教育振興基本計画 一概要版一	P. 59
附属資料7	新県立高校将来構想 〔一部抜粋〕	P. 67
附属資料8	新県立高校将来構想第2次実施計画 〔一部抜粋〕	P. 79
附属資料9	施設整備概要	P. 99
附属資料10	県立高等学校改築事業相対比較表	P. 101
附属資料11	地区別中学校卒業(見込)者数の推移	P. 103
附属資料12	石巻圏中学校卒業(見込)者数の推移	P. 105
附属資料13	減価償却資産の耐用年数等に関する省令 別表第一 〔一部抜粋〕	P. 107
附属資料14	宮城県環境基本計画【概要版】	P. 111

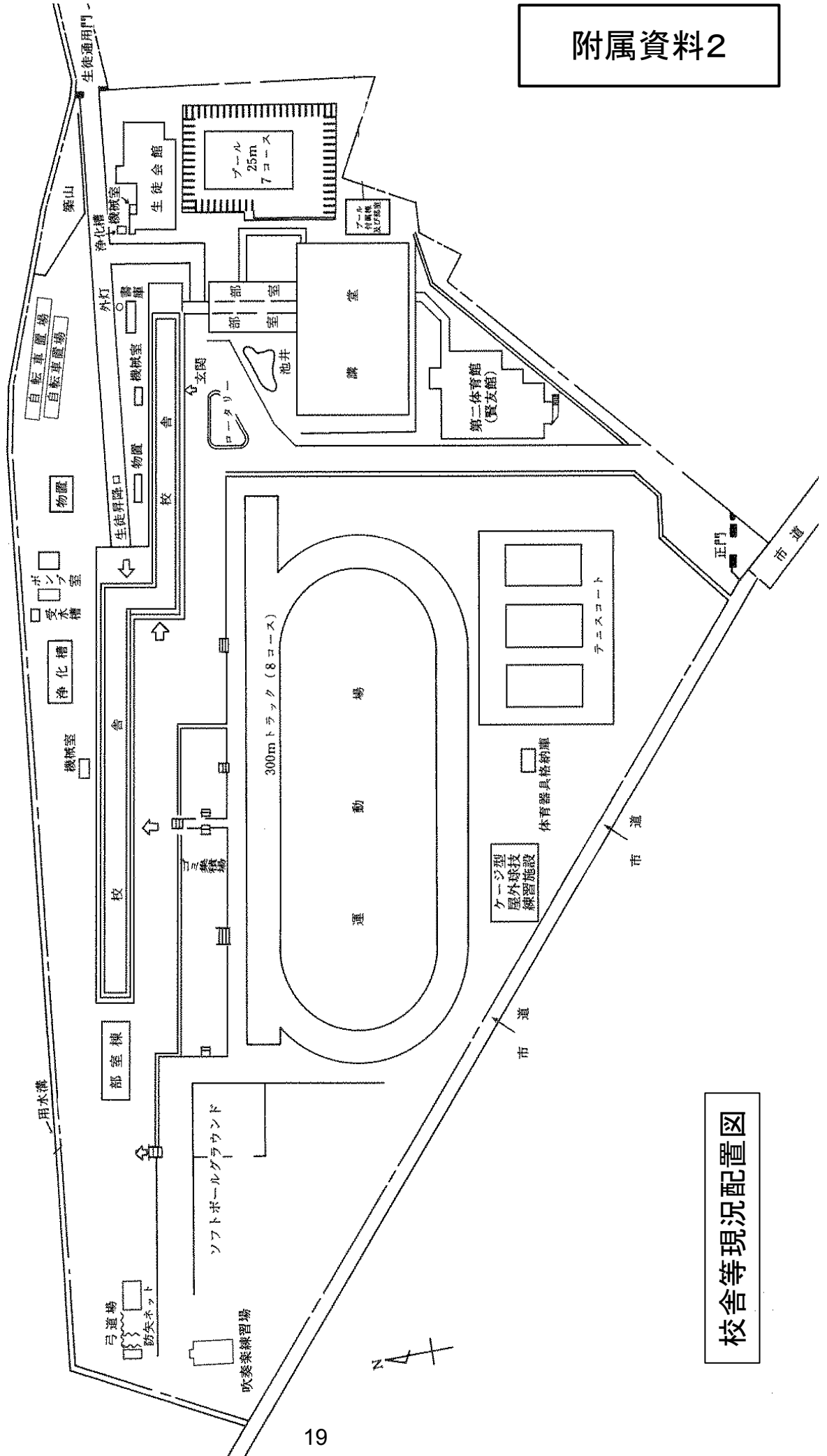


位置図

石巻好文館高等学校

宮城県石巻好文館高等学校配置図

宮城県石巻市真山三丁目4番1号



附属資料2

校舎等現況配置図

石巻好文館高等学校 現況写真





学 校 要 覧

平成 27 年 度

宮城県石巻好文館高等学校

〒986-0851 宮城県石巻市貞山三丁目 4 番 1 号
電 話 0225(22)9161番(代)
F A X 0225(22)9163番

校 歌



1. はぐろの— やまのふと— ころに まつのみ— どり—
 2. き— たかみ— がわの— かわみ— ずは あ— さな— ゆう— なに—



みにし— めて は— ぐく— まれ— ゆく— わが— とも— よ— か—
 たえ— ま— な— く ひ— が— し— の— う— み— に— そ— そ— ぎ— ゆ— く— わ—



わ— ら— め— い— ろ— を— そ— の— ま— ま— に— ひ— ろ— き— み— そ— ら— を—
 れ— ら— も— と— も— に— い— そ— し— み— て— こ— ころ— を— み— が— き—



あ— お— ぎ— つ— つ— ま— す— ぐ— に— つ— よ— く— お— い— た— た— ん—
 み— を— き— た— え— か— い— あ— る— ひ— と— と— い— わ— れ— な— ん—

校 歌

渡辺 義丸 作詞
 金須嘉之進 作曲

一 羽黒の山のふところに

松のみどりを身にしまして

はぐくまれゆく我が友よ

かはらぬ色をそのまゝに

廣きみ空を仰ぎつゝ

ますますに強く生ひ立たむ

二

北上川の川水は

朝な夕なに絶え間なく

東の海に注ぎ行く

我等も共にいそしみて

心を磨き身を鍛へ

甲斐ある人と言はれなむ

校歌・校章・校旗の由来

校 訓

『自発能動』 (じはつのもうどう)

道理をわきまえ、進んでものごとに取り組み、他に働きかけて、自分と他人および社会の発展に尽くす。

『一事貫行』 (いちじかんこう)

目標を立て、自分の生活を計画的に習慣的に確立し、その目標達成のために一生懸命に努力する。

『醇朴成徳』 (じゅんぼくせいとく)

率直に他の人の指導助言に耳を傾け、知性と教養を高め、他から信頼される人間に成長する。

校 是

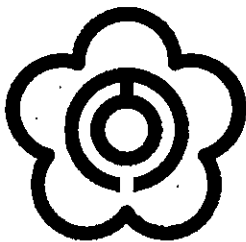
『甲斐ある人と言はれなむ』

真心をもって 世のため人のために 尽くす人になるように 日々努力する

教育方針

- 1 学習指導の徹底と自主的な活動によって広い視野と豊かな知性を養う。
- 2 規律ある日常生活のもとに、信頼と友愛に富む人間関係を育む。
- 3 社会における自己のなすべき使命を自覚させ、社会に貢献する人材を育成する。

校 章



大正10年宮城県立に移管されたとき、石巻町立時代のものに代えて、大正10年11月22日現行の校章が制定された。生徒より懸賞募集の結果、一等賞当選となった当時1年大森信子氏の「梅の花」の図案を元に制定された。

清潔で毅然として生活できる内面豊かな生徒たるべしと、白梅に石の字を配したものである。

校 歌

昭和3年まで「金剛石」を校歌としてうたっていた。昭和4年に当時国語教師の渡辺義丸氏が作詞、金須嘉之進氏作曲の「羽黒の山」が、新しい校歌として歌われるようになった。昭和16年5月19日正式に採用されたのが、現在の校歌である。

校 旗

大正10年4月郡立実科高等女学校より、4年制度の高等女学校として県に移管された際、校章の採択に次いで制定され、京都の高島屋に注文し、鈴木源助氏に寄贈された。大正11年2月11日紀元節の佳辰を卜して盛大に校旗樹立式が挙行された。

本校創立70周年を記念して、父母教師会、同窓会、財団法人後援会より校旗が贈呈され、昭和57年12月24日に校旗を披露した。

さらに、本校創立100周年を記念して、同窓会より新校旗が贈呈された。平成24年9月14日、創立100周年記念式典に先立って校旗贈呈式が行われ、新校旗が披露された。

目 次

①	沿	革	1									
②	歴	代	校	長	3							
③	教	育	目	標	4							
④	教	育	課	程	表	6						
⑤	年	間	行	事	予	定	7					
⑥	教	職	員	一	覧	9						
⑦	校	務	分	掌	12							
⑧	生	徒	に	つ	い	て	14					
	1	生	徒	数	14							
	2	出	身	市	町	村	別	生	徒	数	14	
	3	通	学	状	況	15						
	4	部	・	同	好	会	所	属	15			
⑨	進	路	に	つ	い	て	16					
	1	卒	業	生	総	数	16					
	2	進	路	状	況	16						
⑩	防	災	対	応	組	織	と	防	火	設	備	18
⑪	図	書	館	19								
⑫	生	徒	会	20								
⑬	P	T	A	・	同	窓	会	21				
⑭	校	地	・	校	舎	23						

① 沿 革

明治37年4月29日 私立石巻女学校 修業年限4ヶ年 校舎を日和山麓の料亭跡「穂松館」に定む
 校長 高橋由蔵 (後に鉄牛と改む)
 明治38年4月20日 私立石巻女子実業学校 修業年限2ヶ年 校長 遊佐正人
 校長 本木房吉
 明治39年2月28日 校長 新渡戸仙岳
 明治40年5月1日 校長 錦織玄三郎
 明治41年4月1日 石巻町立石巻実科高等女学校として創立 修業年限2ヶ年
 明治44年9月14日 この日を開校記念の日とする
 大正5年4月28日 郡立移管認可 牡鹿郡立石巻実科高等女学校 修業年限3ヶ年
 大正8年10月21日 牡鹿郡石巻実科高等女学校と改称
 大正8年12月1日 北罎山羽黒山下に木造の新校舎落成
 大正9年3月1日 新校舎設備管制につき移転
 大正10年4月1日 県立移管認可 宮城県石巻高等女学校と改称 修業年限4ヶ年 定員200名
 大正10年11月22日 本校校章・制服を定む
 大正11年2月11日 校旗樹立
 大正12年4月1日 定員変更認可 400名
 昭和2年5月25日 補修科設置 修業年限1ヶ年 定員45名
 昭和8年5月5日 南罎山運動場 9,918㎡設置
 昭和15年4月1日 補修科廃止 専攻科設置 修業年限1ヶ年 定員50名
 昭和19年4月1日 専攻科廃止
 昭和21年4月1日 修業年限5ヶ年 定員750名
 昭和23年4月1日 学制改革により宮城県石巻女子高等学校として開校 修業年限3ヶ年
 定員600名 併設中学校を置く
 昭和23年7月15日 定時制課程設置 修業年限4ヶ年 定員160名
 昭和24年3月31日 併設中学校自然廃止となる
 昭和25年4月1日 通常課程 定員750名
 昭和26年2月21日 体育館設置
 昭和26年7月11日 4教室増設 (2階)
 昭和28年4月1日 通常課程 定員900名
 昭和30年10月20日 4教室増設 (階上) 並びに階下2教室を図書室に改造 落成式挙行
 昭和31年3月15日 宮城県石巻女子高等学校新築事業期成同盟会発足
 昭和32年1月28日 財団法人宮城県石巻女子高等学校後援会設立認可
 昭和32年5月8日 調理室改造並びに調理台5台新設
 昭和33年10月15日 体育館内にステージ増設 北校舎昇降口増築
 昭和36年9月14日 本校創立50周年記念式典挙行
 昭和36年10月15日 財団法人本校後援会が新校地として石巻市南谷地地区14,280.19坪
 売買契約締結 (昭38.9.28に291.76坪追加分売買契約締結)
 通常課程 定員1,050名
 昭和38年4月1日 校舎新築起工式挙行
 昭和40年4月26日 東校舎 (1部) 躯体工事完了 843.75㎡
 昭和40年8月14日 東校舎仕上工事完了 1,923.75㎡
 昭和42年6月30日 自転車置場55㎡ 焼却炉1ヶ所 物置場66㎡ 書庫36㎡ コークス置場19㎡ 設置
 昭和43年3月30日 西校舎躯体並びに仕上工事完了 4,304.46㎡
 昭和43年4月30日 石巻市南谷地 (現貞山三丁目) の新校舎鉄筋コンクリート6,227.31㎡に移転
 昭和43年8月26日 体育館竣工
 昭和44年3月25日 校舎並びに体育館落成記念式典挙行
 昭和44年4月1日 新校舎落成記念植樹 (第1回) ヒマラヤシーダー紅霧島つつじ その他930本
 昭和44年7月11日 新校舎落成記念植樹 (第2回) 熊野さつき300本
 昭和44年12月10日 全日制課程第1学年収容定員 (315人)
 昭和46年4月1日 校地踏切に警報器設置
 昭和46年6月23日 創立60周年記念式典挙行
 昭和46年11月20日 校庭整備第1期工事 (陸上競技用トラックフィールド給水工事)
 昭和46年12月20日 玄関前池 (循環浄化設置 水槽工事) 新設
 昭和46年12月20日 自転車置場30㎡ 増設 夜間屋外照明5基設置
 昭和47年3月31日 プール (25m×7コース) 完成
 昭和47年8月31日 寄宿舎完成 鉄筋コンクリート造2階建 633.43㎡
 昭和47年8月31日 テニスコート2面造成
 昭和49年8月31日 東入口より生徒昇降口、玄関までの舗装工事完成
 昭和49年10月30日 玄関前ロータリー造成、南入口より玄関までの舗装工事完成
 昭和50年10月1日 南入口より玄関までキタカミハクヨウ並木植樹
 昭和50年11月30日 南門 (正門)・東門 (通用門) 落成式
 昭和51年2月21日 東門より生徒昇降口までイチョウ並木植樹
 昭和51年6月10日 東門付属庭園完成 (同窓会寄贈)
 昭和51年10月1日 旧校舎跡に記念碑建立除幕式
 昭和51年12月11日 屋外体育用器具格納庫 19.44㎡ (財団で新設県に寄付受納)
 昭和52年10月4日 校舎北側フェンス完成
 昭和52年12月1日

昭和53年6月26日	校長宿舎新設工事 (68.53㎡)
昭和53年12月15日	財団法人本校後援会生徒会館建設工事請負契約
昭和54年10月30日	財団法人本校後援会生徒会館建設工事落成 1,062.74㎡ 宮城県に寄付、受納 (昭和54.10.30)
昭和56年3月25日	寄宿舎、校舎渡り廊下鉄骨改築107.29㎡
昭和56年9月4日	創立70周年記念式典挙行
昭和56年11月24日	自転車置場増設129.6㎡
昭和56年4月30日	寄宿舎「白梅寮」廃止
昭和57年12月24日	新校旗披露 (旧校旗永久保存)
昭和60年3月17日	校舎防音工事完了
平成元年3月3日	校舎西側フェンス設置
平成元年10月28日	屋体改修工事の為解体撤去
平成元年11月20日	校舎西側及び裏門北側フェンス設置
平成2年3月30日	石巻市よりヤマモミジ30本寄贈
平成2年7月23日	講堂 (体育館) 新設工事完成 1,744.65㎡ (防衛庁より県に寄付受納)
平成2年11月10日	テニスコート一面造成
平成3年2月2日	合宿所改築工事
平成3年5月31日	弓道場竣工 110.34㎡ (財団で新設県に寄付受納)
平成3年9月6日	玄関前庭整備 (同窓会)
平成3年10月25日	創立80周年記念式典挙行
平成3年11月1日	校舎給水設備工事竣工
平成6年3月1日	八十年誌発行
平成9年2月24日	校舎等バルコニー・手摺補修工事
平成9年3月6日	自転車置場一部塗装替
平成9年3月7日	弓道場防矢ネット等改修工事
平成9年3月24日	講堂 (体育館) 床樹脂塗布等工事
平成9年6月26日	吹奏楽練習場竣工 97.70㎡ (財団で新設県に寄付受納)
平成9年12月9日	梅寮解体整地
平成10年3月20日	第二体育館竣工 1,051.43㎡
平成10年3月30日	ソフトボールバックネット新設
平成11年11月30日	テニスコート脇・弓道場脇等舗装工事 (財団)
平成12年6月10日	プール全面塗装工事
平成13年4月7日	生徒昇降口前記念植栽工事 (同窓会)
平成13年8月24日	プールフェンス改築工事
平成13年9月13日	創立90周年記念式典挙行
平成13年12月17日	自転車置場新設 138.60㎡
平成14年2月28日	コンピュータ室設置
平成15年2月19日	校内LAN設置
平成15年3月25日	プール濾過機 (砂濾過式に) 改修工事
平成15年3月28日	コンピュータ40台設置
平成15年4月12日	庁務室・部室防水工事
平成16年3月28日	校舎床 (3階・各階段) 改修工事
平成17年10月4日	東校舎耐震工事
平成18年1月26日	生徒会館渡廊下塗装工事
平成18年2月27日	校舎改修・増築 (男子トイレ棟・プール付属棟・トイレ改修) 工事
平成18年2月28日	生徒会館屋上防水工事
平成18年3月24日	校舎床改修工事 (2階)
平成18年3月27日	講義室エアコン設定工事
平成18年4月1日	男女共学化により校名変更 宮城県石巻好文館高等学校 校是を「甲斐ある人と言はれなむ」と制定
平成18年10月18日	西校舎耐震工事
平成18年11月7日	防犯灯増設 (校舎東門庭・校舎北側庭・昇降口脇)
平成18年11月13日	校舎床改修工事 (1階)
平成20年3月31日	定時制課程閉講
平成20年10月17日	生徒会館給水設備改修工事
平成21年1月23日	ガス配管改修工事第1期 (生徒会館)
平成21年10月30日	ガス配管改修工事第2期 (校舎)
平成21年1月23日	校長宿舎解体工事
平成22年1月28日	ケージ型屋外球技練習施設竣工 (財本校後援会で新設県に寄付採納)
平成22年4月1日	進学型単位制導入
平成22年11月2日	テニスコートネットフェンス新設 (東側) (財本校後援会で新設、県に寄附)
平成23年1月24日	部室棟新設 (校地西側) 389.8㎡ (財本校後援会で新設、県に寄附)
平成23年3月7日	校舎外壁・屋上防水工事
平成23年3月23日	ソフトボール場防球ネット新設 単位制導入に伴う改造工事 (教室間仕切工事)
平成24年9月14日	創立百周年記念式典挙行
平成24年11月15日	災害復旧工事 (東日本大震災)
平成24年9月14日	創立百周年記念式典挙行
平成25年7月19日	外壁改修工事 (生徒会館)
平成27年3月31日	防災備蓄倉庫設置

② 歴 代 校 長

	氏 名	着任年月日	離任年月日
初代	錦 織 玄三郎	明治44. 9. 25	大正3. 10. 23
2代	遠 藤 儀三郎	大正3. 12. 18	大正4. 4. 9
3代	鈴 木 達之助	大正4. 4. 9	大正10. 4. 23
4代	金 内 五 七	大正10. 4. 23	大正12. 2. 23
5代	上 野 威	大正12. 2. 23	昭和3. 3. 9
6代	土 井 賢 志	昭和3. 3. 9	昭和7. 7. 31
7代	畑 平 次	昭和7. 7. 31	昭和12. 4. 2
8代	金 子 武 雄	昭和12. 4. 2	昭和17. 4. 4
9代	梶 谷 健 吉	昭和17. 4. 4	昭和21. 3. 31
10代	丁 子 忠	昭和21. 3. 31	昭和30. 3. 31
11代	奥 野 泉	昭和30. 4. 1	昭和36. 12. 31
12代	阿 部 徳 郎	昭和37. 4. 1	昭和44. 3. 31
13代	庄 司 秀 一	昭和44. 4. 1	昭和47. 3. 31
14代	野 口 行 敏	昭和47. 4. 1	昭和49. 3. 31
15代	渡 辺 仁 作	昭和49. 4. 1	昭和53. 3. 31
16代	菅 原 隆	昭和53. 4. 1	昭和56. 3. 31
17代	佐々木 正 一	昭和56. 4. 1	昭和59. 3. 31
18代	高 木 薫	昭和59. 4. 1	昭和61. 3. 31
19代	小 沼 照 之	昭和61. 4. 1	昭和63. 3. 31
20代	菅 原 潤一郎	昭和63. 4. 1	平成3. 3. 31
21代	伊 藤 邦 夫	平成3. 4. 1	平成5. 3. 31
22代	川 崎 健次郎	平成5. 4. 1	平成8. 3. 31
23代	今 川 捷	平成8. 4. 1	平成10. 3. 31
24代	高 橋 直 見	平成10. 4. 1	平成12. 3. 31
25代	木 村 秀 起	平成12. 4. 1	平成15. 3. 31
26代	高 橋 正 明	平成15. 4. 1	平成17. 3. 31
27代	白 旗 宏 喜	平成17. 4. 1	平成19. 3. 31
28代	中 村 健 一	平成19. 4. 1	平成22. 3. 31
29代	小野寺 千穂子	平成22. 4. 1	平成25. 3. 31
30代	澤 田 可 知	平成25. 4. 1	平成27. 3. 31
31代	狩 野 宏 史	平成27. 4. 1	

3 教 育 目 標

「たくましい心身と明るく清らかな精神を育み、豊かな感性と深い知性を持って自他を尊重し、創造的かつ主体的に生きる力を養う」

1. 教育方針

- (1) 学習指導の徹底と自主的な活動によって広い視野と豊かな知性を養う。
- (2) 規律ある日常生活のもとに、信頼と友愛に富む。
- (3) 人間関係を育む社会における自己のなすべき使命を自覚させ、社会に貢献する人材を育成する。

2. 平成27年度重点目標

- (1) 進路実現に向けた組織的な取組。
- (2) 基本となる生活習慣等の徹底指導。
(ルールを守る・時間を守る・人の話を聞く・正しい言葉遣い)
- (3) 45分授業実施に伴う指導内容の工夫と家庭学習の充実による学力の向上。
- (4) 生徒の主体性を育成する指導法の確立と実行
- (5) 開かれた学校づくりの加速的推進

3. 平成27年度各年次重点目標

1年次

- (1) 自ら学習に取り組む姿勢を育むと共に、基本的な学力の定着を図り、高校での学習に必要な知識を養う。
 - 1) 授業やホームルームにおいて、人の話をしっかり聞く姿勢を育てる。
 - 2) 予習・授業・復習のサイクルを定着を図る。
 - 3) 国語・数学・英語の学力を向上させる。
- (2) 集団生活の中で必要な規範意識を習得し、将来、社会の一員として誇りを持ち、責任と自覚ある行動が出来る人間性を養う。
 - 1) 高校生らしい挨拶や礼儀を身に付ける。
 - 2) 本校の伝統にそった服装や身だしなみを身に付ける。
 - 3) 時間の大切さを理解させ、遅刻・欠席・早退をさせないようにする。
 - 4) 責任ある行動ができ、集団の中での役割を果たすことができるようにする。
 - 5) 交通規則を守る。
- (3) 様々な環境や立場の異なる人と触れ合うことで、広い視野と豊かな人間性を育み、他者を理解し、誠実さと配慮を持って接することができる人格を形成する。
 - 1) 「甲斐たいむ」を積極的に活用し、主体的に行動出来る態度を養う。
 - 2) 部活動、委員会、生徒会への積極的な参加を促す。

2年次

- (1) 礼節を大切にし、好文生としての自覚と責任をもって行動ができる。
 - 1) 身だしなみを(服装・頭髪)を整える。
 - 2) 遅刻、欠席、早退をしない。
 - 3) 自分の言動・行動に責任をもつ。
 - 4) 公共物を大切にし、感謝の気持ちをもって生活できる。
- (2) 進路実現に向け、基礎学力の向上と家庭学習の定着を図る。
 - 1) 予習・授業・復習のサイクルを身につけ、基本的な学習習慣を定着させる。
 - 2) 英語・数学・国語の基礎学力を向上させる。
 - 3) 英語・数学・国語については、週末の課題を毎週準備し、教科ごとに教科指定の曜日に提出させる。
 - 4) 正確に速くインプット・アウトプットできる力を身につける。
- (3) 主体的に特別活動に取り組める資質を高める
 - 1) 部活動で心身を鍛える。
 - 2) 甲斐タイムで自分を磨く。
 - 3) 学年・学校行事に積極的に参加し、満足感や達成感を味わえるようにする。
 - 4) 各学級の行事に積極的に参加し、一人一人が尊重できるような調和と協調の精神を養う。

3年次

- (1) 学力の向上と進路希望の実現
 - 1) 受験に対する意識を高め、自ら選択した授業に探求心をもって取り組ませる。
 - 2) 一人一人に即したきめ細やかな進路相談をすすめて、自らすすんで計画的・継続的に学習に打ち込む力を育てる。
 - 3) 常に生徒の情報を共有し、入試に向けた適切な指導を図る。
- (2) 心の成長と自律性をもった生活習慣の確立
 - 1) 礼儀正しく、道理をわきまえた行動を身につけ、集団や社会の一員としての自覚を持たせる。
 - 2) 最高学年としての役割を自覚し、すすんで物事に取り組むとともに、素直に指導助言に耳を傾け、周囲から信頼される人間の育成を図る。
- (3) 質の高い部活動や学校行事の実現

- 1) より高い部活動の目標を達成するため、残された時間を最大限に活用し、仲間と共に効率よく練習に励むことができる環境作りに努める。
- 2) 生徒会活動や委員会活動においてリーダーシップを図り、全校生徒が満足できるような学校行事を立案し、そのために必要な準備を年次集団が一体となって取り組めるよう指導を図る。

4. 平成27年度各分掌部重点目標

〈総務部〉

- (1) 学校全般の運営、種々の教育活動が円滑に進むよう連絡・調整を図る。
- (2) 学校情報の提供に努め、開かれた学校づくりを目指す。
- (3) 式典の企画を行い、その円滑な実施に努める。
- (4) 各種奨学会の事務と奨学生の指導に当たる。
- (5) P T A ・同窓会等、学校関係組織への協力・補佐をする。

〈教務部〉

生徒の学力向上の効果的な達成のため、シラバス・授業・教育課程等の研究を進める。

- (1) 授業の質の向上を図るために、教職員相互の授業公開を積極的に推進する。シラバスを積極的に利用し授業を展開する。
- (2) 生徒に自学力を身につける指導を行い、計画性を持った学習の習慣を身につけるように指導する。
課題テスト・考査などの学力点検を次回に生かせるように指導する。
- (3) 新学習指導要領の各教科・科目の目標を意識した授業および評価の研究を進める。
- (4) 授業や行事の効率化を図り、学習環境の整備を行う。

〈生徒指導部〉

職員が共通した認識を持ち、組織的に取り組む校内指導体制を確立する。

- (1) 基本となる生活習慣等の徹底指導
マナーアップ推進校として、挨拶の励行、制服の正しい着こなし（ルールを守る・時間を守る・人の話を聞く・正しい言葉遣い）
- (2) 部活動、生徒会、委員会活動の活発化（活動の意義と達成感）
- (3) 学校行事への積極的な参加と取り組み

〈進路指導部〉

- (1) 一人ひとりの生徒が自己理解と進路研究によって、将来の展望に立った進路計画と選択が果たせるよう体系的な進路指導を充実させる。
- (2) 模擬試験や課外授業を通じて、生徒の学力の把握・伸長に努め、一人ひとりの生徒が適性・能力・希望に応じた学習を深めて目標を実現させられるよう指導する。

〈図書部〉

- (1) 読書に親しみ、読書する習慣の涵養
- (2) 図書利用の促進
- (3) 芸術鑑賞の円滑な実施
- (4) 本校情報の外部への発信（図書館だより）

〈保健厚生部〉

- (1) 保健教育を推進し、自主的健康管理の育成を図る。
- (2) 学校保健活動を推進し、生徒及び教職員の健康増進を図る。
- (3) ゴミ問題を中心にした学校環境の美化を推進する。
- (4) スクールカウンセリングを通してメンタルケアの充実を図る。
- (5) L H R 等での保健講話などを通して、思春期の身体的・精神的特徴を学ばせる。

〈企画研究部〉

- (1) 「甲斐ある人育成プラン」実現のため、各教科の授業と総合的な学習の時間「甲斐ある人といわれたいむ」中心として、全職員が一丸となって取り組めるように、各分掌および各教科間の連携を図り、組織的な運営を行う。
- (2) 学力向上に結びつく「授業力の向上」のため、研修や授業公開の在り方を探り、校内研修の活性化を目指す。
- (3) 授業評価の質問項目等を、本校の課題の分析と授業力向上につながる内容に検討する。
- (4) ホームページの活用など効果的な情報発信によって、本校の教育活動をPRし、本校の魅力を地域や県内に浸透させる。

④ 平成27年度教育課程

	一年次	二年次	三年次											
1		現代文B②	現代文B②											
2														
3	国語総合⑤	古典B④	体育②											
4			古典A②											
5		日史A②	コミュニケーション英語Ⅲ④											
6	世界史A②	地理A②												
7														
8	現代社会②	日本史B⑤	英語表現Ⅱ②											
9		地理B⑤												
10		物理⑤												
11	数学Ⅰ④	化学⑤												
12		生物⑤												
13		現代社会②	倫理⑤	政治経済⑤	特講数学α⑤	現代社会③	数学A③	特講体育α③				数学Ⅲ⑥	特講数学β⑥	
14	数学A②					教養国語②	数学B②	特講体育β②	特講英語α②					
15		数学Ⅱ⑤												
16	化学基礎②													
17	生物基礎②	世界史B⑤	特講日本史α⑤	特講地理α⑤	フードデザイン③	国語表現③				特講数学γ②	特講国語④			
18		数学B②	社会と情報②		特講古典②	家庭実習②	情報の科学②							
19	体育②													
20		体育②												
21	保健①	特講英語β④	世界史B②	特講日本史β②	特講地理β②	特講地理γ②	政治経済②	現代社会②	数学A②	教養音楽②	教養美術②	教養書道②		
22		特講古典②	倫理②	数学B②	音楽Ⅱ②	美術Ⅱ②	書道Ⅱ②	特講英語α②	家庭実習②					
23	音楽Ⅰ②	コミュニケーション英語Ⅱ④	特講古典②	物理②	化学②	生物②	生物基礎②	地学基礎②	特講英語β④					
24	美術Ⅰ②													
25	書道Ⅰ②													
26	コミュニケーション英語Ⅰ④	英語表現Ⅱ③												
27		物理⑥	化学⑥	生物⑥	特講国語④	特講現代文④	専門音楽④	専門美術④	専門書道④					
28	英語表現Ⅰ②	家庭基礎②												
29	社会と情報②													
30														
31	総合学習①	総合学習①	実践古文①	実践世界史①	実践物理①	実践生物①	実践英語①							
32	LHR①	LHR①	実践漢文①	実践政経①	実践現社①	実践地学②	実践数学α①	実践化学①	実践英語①					
33			実践現代文①	実践地理①	実践倫理①			実践数学β①	実践英語①					
34			総合学習①											
35			LHR①											
36														
37														

○ ○

5 平成 27 年度 行事 予定 (4-9)

宮城県石巻好文館高等学校

4 月		5 月		6 月		7 月		8 月		9 月	
1 水	1 金	1 月	1 水	1 日	1 土	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日	1 日
2 木	2 土	2 火	2 木	2 月	2 日	2 日	2 日	2 日	2 日	2 日	2 日
3 金	3 日	3 水	3 金	3 水	3 月	3 日	3 日	3 日	3 日	3 日	3 日
4 土	4 月	4 木	4 土	4 木	4 日	4 日	4 日	4 日	4 日	4 日	4 日
5 日	5 火	5 金	5 日	5 金	5 月	5 日	5 日	5 日	5 日	5 日	5 日
6 月	6 土	6 土	6 月	6 土	6 月	6 日	6 日	6 日	6 日	6 日	6 日
7 火	7 水	7 日	7 火	7 日	7 火	7 日	7 日	7 日	7 日	7 日	7 日
8 水	8 金	8 月	8 水	8 月	8 水	8 日	8 日	8 日	8 日	8 日	8 日
9 木	9 土	9 火	9 木	9 火	9 日	9 日	9 日	9 日	9 日	9 日	9 日
10 金	10 日	10 水	10 金	10 水	10 月	10 日	10 日	10 日	10 日	10 日	10 日
11 土	11 月	11 木	11 土	11 木	11 月	11 日	11 日	11 日	11 日	11 日	11 日
12 日	12 火	12 金	12 日	12 金	12 日	12 日	12 日	12 日	12 日	12 日	12 日
13 月	13 水	13 月	13 水	13 月	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日	13 日
14 火	14 木	14 日	14 火	14 日	14 日	14 日	14 日	14 日	14 日	14 日	14 日
15 水	15 金	15 月	15 水	15 月	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日	15 日
16 木	16 土	16 火	16 木	16 火	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日	16 日
17 金	17 日	17 水	17 金	17 水	17 日	17 日	17 日	17 日	17 日	17 日	17 日
18 土	18 月	18 木	18 土	18 木	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日	18 日
19 日	19 火	19 金	19 日	19 金	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日	19 日
20 月	20 水	20 月	20 水	20 月	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日	20 日
21 火	21 木	21 日	21 火	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日	21 日
22 水	22 金	22 月	22 水	22 月	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日	22 日
23 木	23 土	23 火	23 木	23 火	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日	23 日
24 金	24 日	24 水	24 金	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日	24 日
25 土	25 月	25 木	25 土	25 木	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日	25 日
26 日	26 火	26 金	26 日	26 金	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日	26 日
27 月	27 水	27 月	27 水	27 月	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日	27 日
28 火	28 木	28 日	28 火	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日	28 日
29 水	29 金	29 月	29 水	29 月	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日	29 日
30 木	30 土	30 火	30 木	30 火	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日	30 日
31 日	31 月	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日	31 日

[5] 平成 27 年 度 行 事 予 定 (10-3)

宮城県石巻好文館高等学校

10 月			11 月			12 月			1 月			2 月			3 月		
日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事	日	曜	行事
1	木	卒業式、生徒会役員選挙	1	日		1	火	元日	1	月		1	月		1	火	卒業式
2	金		2	月		2	水	1・3年 第3回卒業	2	火	前期選抜入試準備 (2校授業)	2	火	前期選抜入試準備 (2校授業)	2	水	
3	土	3年卒業生送別会	3	水	文化の日	3	木	1・3年 第3回卒業	3	水	前期選抜入試 (家庭学習日)	3	水	前期選抜入試 (家庭学習日)	3	木	
4	日	2年公務員試験Ⅰ	4	木		4	金	1(1/3、4石専大) ↓	4	木	探点日 (家庭学習日)	4	木	探点日 (家庭学習日)	4	金	
5	月		5	金		5	土		5	金	3年卒業式	5	金	3年卒業式	5	土	
6	火	3年卒業生送別会 (大学)	6	土	1年ボランティア実施日	6	日		6	土		6	土		6	日	
7	水	3年進路指導者講習Ⅰ	7	日	3年卒業生送別会Ⅲ	7	月	前期選抜入試	7	日		7	日		7	月	
8	木		8	月	2年公務員試験Ⅱ	8	火		8	金	全校集会 大掃除	8	月		8	火	後期選抜入試準備 (2校授業)
9	金		9	火		9	水	1年エイズ教育	9	土	全校集会 大掃除	9	火		9	水	後期選抜入試 (家庭学習日)
10	土	卒業生送別会Ⅱ	10	水		10	木		10	日	成人の日	10	水	午商授業	10	木	探点日 (家庭学習日)
11	日		11	木	2年進路講話	11	金		11	月		11	木	進路記念の日	11	金	みやぎ県議の日 (家庭学習日)
12	月		12	金	体育の日	12	土		12	火		12	金	前期選抜合格発表	12	土	
13	火		13	土		13	日		13	水	1・2年薬物乱用防止講話	13	土		13	日	
14	水	1・3年卒業生送別会	14	日		14	月		14	木	1・2年小論文指導Ⅱ	14	日		14	月	
15	木	1・3年卒業生送別会	15	月		15	火	6時授業	15	金	3年卒業式	15	月		15	火	午商授業
16	金	3年卒業生送別会Ⅱ	16	火		16	水	1・2年小論文模範文	16	土	1・2年卒業式	16	火		16	水	後期選抜合格発表 (家庭学習日)
17	土		17	水		17	木		17	日	1・2年センター準備	17	水		17	木	
18	日		18	木	1年進路講話	18	金		18	月	3年センター自己採点	18	木	午商授業	18	金	1・2年センター
19	月		19	金		19	土		19	火		19	金		19	土	
20	火		20	土	3年河合塾セブナーテスト	20	日		20	水	1・2年小論文模範文	20	土		20	日	
21	水	生徒会・賞状伝達	21	日		21	月		21	木		21	日		21	月	春分の日
22	木		22	月		22	火	全校集会 大掃除	22	火	英検第3回1次試験	22	月		22	火	
23	金		23	火		23	水	天皇誕生日	23	水	1・2年進研模範Ⅱ (金)	23	火		23	水	分科別進研模範研究会
24	土	土曜公開 (4日授業)	24	水	2年卒業生送別会	24	木		24	木		24	水	大掃除	24	木	卒業式 大掃除
25	日	3年卒業生送別会 (新刊)	25	木	1・2年卒業生講習	25	金	1・2年~25日 ↓	25	金		25	木		25	金	卒業式 大掃除
26	月	3年卒業生送別会 (新刊)	26	金	3年~28日 ↓	26	土		26	火		26	金	式場運営 3年卒業式	26	土	
27	火		27	土		27	日		27	水	1・2年卒業生講習 下の分科	27	日		27	月	卒業式 大掃除
28	水	3年卒業生送別会Ⅱ	28	日		28	月		28	木		28	月		28	火	卒業式 大掃除
29	木		29	月		29	火		29	金		29	月	同窓会入会式 卒業式不行	29	火	
30	金		30	火		30	水		30	土	2年公務員試験Ⅱ	30	水		30	木	離任式
31	土		31	水		31	木		31	日		31	木		31	金	

6 教 職 員 一 覧

校 長	教 頭	主 幹 教 諭	教 諭	養 護 教 諭	実 習 助 手	事 務 職 員	事 務 職 員 (学 校 司 書)	技 師 (庁 務)	講 師	代 替 養 護 教 諭	非 常 勤 講 師	情 報 化 支 援 員	キ ャ リ ア ア ド バ イ ザ ー	学 校 医	学 校 薬 劑 師	計
1	1	1	41	1	1	4	1	2	1	1	6	1	1	4	1	68

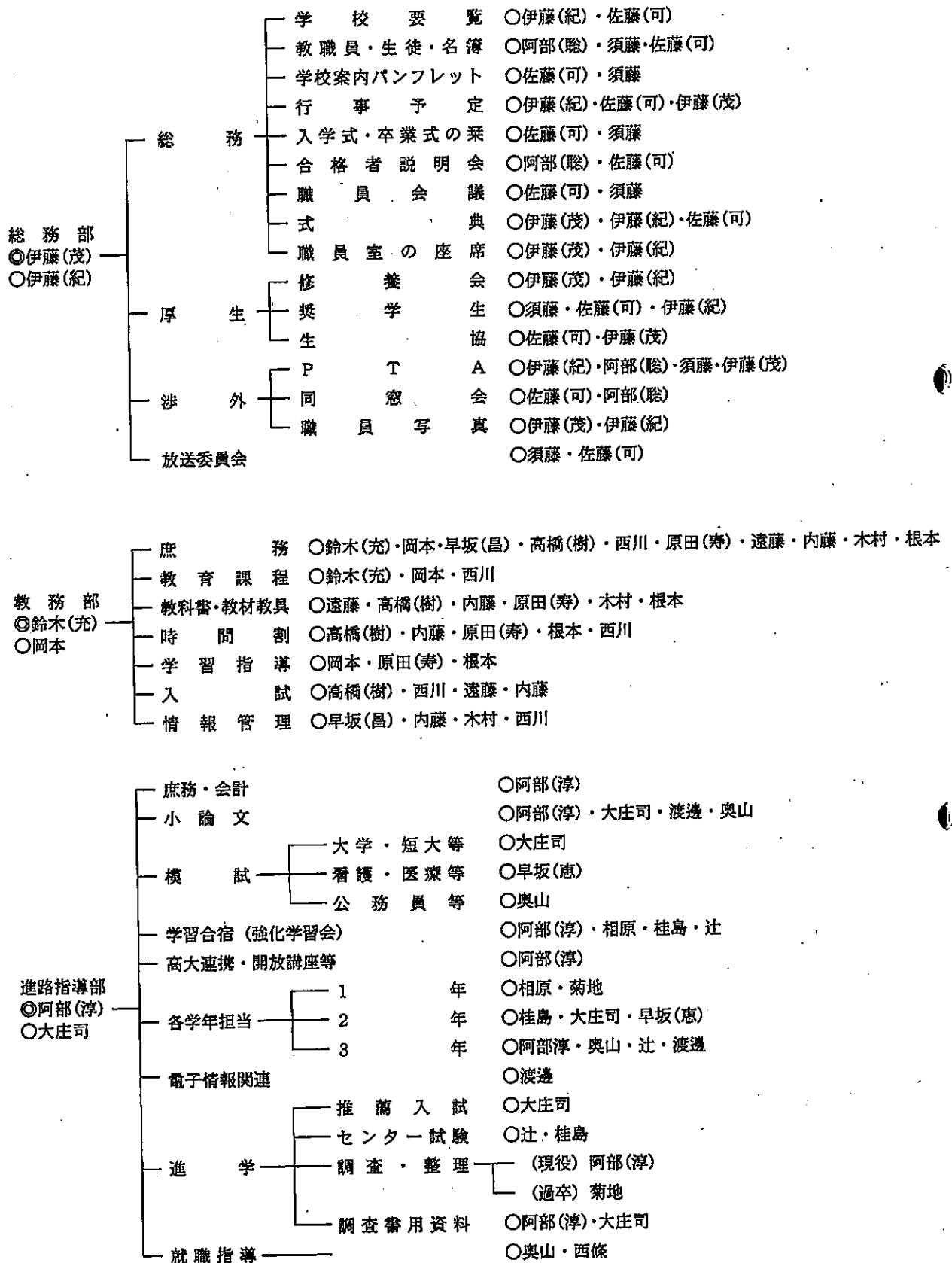
職 員

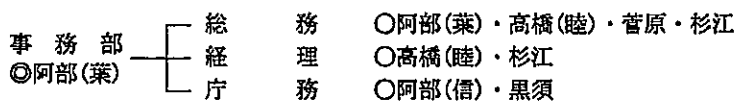
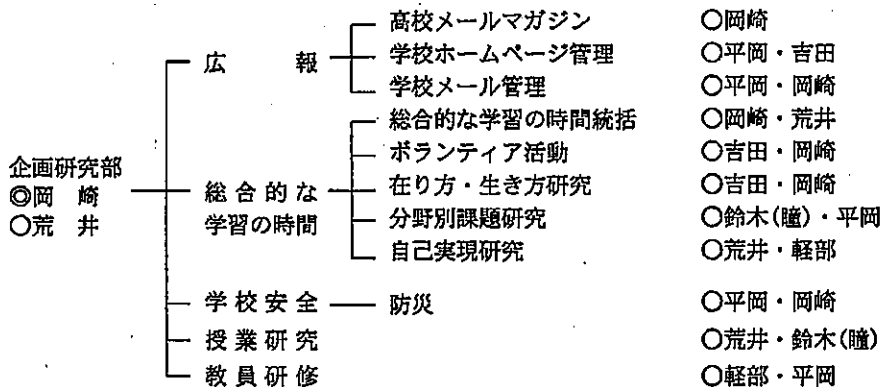
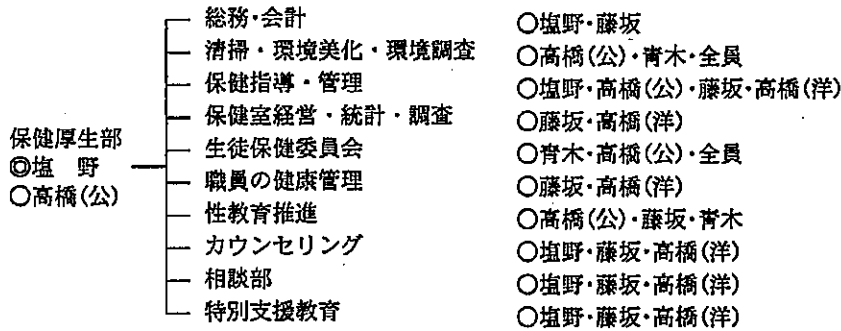
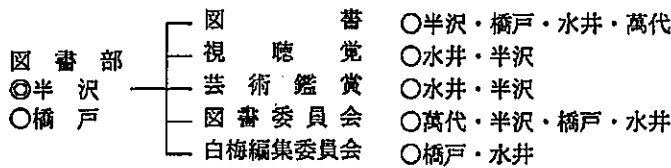
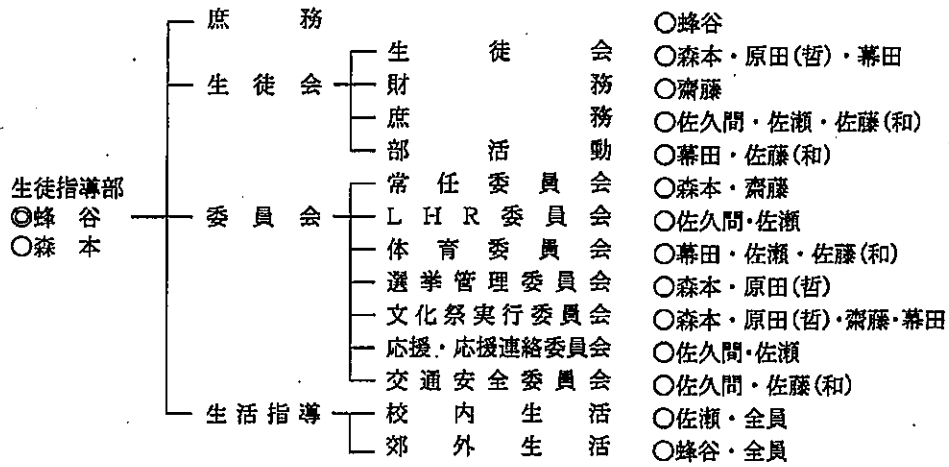
	職	氏 名	教 科	学 年	分 掌 部	○：正顧問／◇：副顧問
1	校 長	狩 野 宏 史				
2	教 頭	亀 井 嘉 昭				
3	主 幹 教 諭	岡 崎 拓 生	保 健 体 育		◎企画研究	◇バレーボール(男)
4	教 諭	高 橋 公	数 学	1-1副	保健	○水泳
5	教 諭	橋 戸 孝 司	国 語	1-2副	図書	○吹奏楽 ○白梅編集委員会
6	教 諭	半 沢 道 子	国語/芸術	3-3副	◎図書	○書道
7	教 諭	塩 野 博 子	家 庭	2-2副	◎保健	○家庭生活
8	教 諭	蜂 谷 尊 子	保 健 体 育	1-3副	◎生徒	○バレーボール(女)
9	教 諭	早 坂 昌 樹	数学/情報	2-4副 ・副主任	教務	○マンドリン
10	教 諭	桂 島 猛	英 語	◎2年次	進路	○吹奏楽
11	教 諭	辻 昌 宏	数 学	3-4副 ・副主任	進路	○美術 ◇JRC同好会
12	教 諭	伊 藤 茂	地 歴 公 民	2-5副	◎総務	◇吹奏楽
13	教 諭	奥 山 礼一郎	地 歴 公 民	3-2副	進路	○応援同好会
14	教 諭	阿 部 聡	国 語	3-6正	総務	○バレーボール(男)
15	教 諭	鈴 木 充	理 科	3年次	◎教務	○空手道
16	教 諭	阿 部 淳 一	数 学	3年次	◎進路	◇バスケットボール(女)
17	教 諭	森 本 修	理 科	2-4副	生徒	◇硬式野球
18	教 諭	大 庄 司 賢	英 語	2-5副	進路	○珠算 ○読書同好会
19	教 諭	岡 本 雄 一	国 語	2-3副	教務	◇ソフトボール
20	教 諭	相 原 光 英	英 語	◎1年次	進路	◇卓球

	職	氏名	教科	学年	分掌部	○：正顧問／◇：副顧問
21	教諭	高橋樹順	理科	1-4副 ・副主任	教務	○写真
22	教諭	佐瀬玲子	保健体育	◎3年次	生徒	○ソフトボール
23	教諭	伊藤紀行	理科	3-1副	総務	○硬式野球
24	教諭	早坂恵理加	英語	2-1副	進路	◇応援同好会
25	教諭	佐藤可織	英語	3-6副	総務	○文芸同好会 ○ESS同好会
26	教諭	西川英士	数学	3-1正	教務	○卓球
27	教諭	軽部熊一	地歴公民	3-5正	企画研究	○陸上競技
28	教諭	内藤信明	数学	1-3正	教務	◇音楽
29	教諭	吉田まゆ	国語	1-3副	企画研究	◇マンドリン
30	教諭	原田寿江子	地歴公民	3-4正	教務	○茶道同好会 ○JRC同好会
31	教諭	平岡拓	理科	2-1正	企画研究	◇陸上競技
32	教諭	菊地若菜	英語	1-1正	進路	◇ソフトテニス
33	教諭	鈴木瞳	数学	2-2正	企画研究	◇吹奏楽
34	教諭	渡邊伸明	英語	3-3正	進路	○バレーボール(女)
35	教諭	荒井俊介	英語	3-2正	企画研究	○バスケットボール(男)
36	教諭	遠藤広太郎	英語	2-3正	教務	○弓道
37	教諭	水井奏	芸術	2-4正	図書	○音楽 ◇白梅編集委員会
38	教諭	原田哲史	数学	1-5正	生徒	○ソフトテニス
39	教諭	佐藤和道	地歴公民	1-1副	生徒	○剣道
40	教諭	齋藤彰子	国語	2-5正	生徒	◇水泳 ◇写真
41	教諭	木村貴大	理科	1-2正	教務	○地質天文同好会 ◇剣道
42	教諭	青木翔平	英語	1-5副	保健	◇バスケットボール(男)
43	教諭	幕田一真	保健体育	1-4正	生徒	○バスケットボール(女) ◇バスケットボール(男)
44	教諭	根本啓介	数学	2-2副	教務	○ワンダーフォーゲル同好会 ◇空手
45	養護教諭	藤坂順子		1年次	保健	
46	実習助手	須藤篤	理科	1年次	総務	◇地質天文同好会

	職	氏名	教科	学年	分掌部	○：正顧問／◇：副顧問
47	副参事兼 事務室長	阿部 葉子				
48	主幹 (事務次長)	高橋 睦美				
49	主事	今井 恵利				
50	主事	杉江 里実				
51	主事	菅原 惇也				
52	主任技師	阿部 信和				
53	技師	黒須 彰一				
54	講師	佐久間 圭	地歴公民	3-5副	生徒	◇硬式野球 ◇ワンダーフォーゲル同好会
55	代替養護教諭	高橋 洋子		3年次	保健	
56	学校司書	萬代 多美子				
57	非常勤講師	安齋 雅裕				
58	非常勤講師	高橋 啓志				
59	非常勤講師	白鳥 律子				
60	非常勤講師	増子 光				
61	非常勤講師	勝又 伸子				
62	非常勤講師	鈴木 二葉				
63	情報化 支援委員	吉田 玲奈				
64	キャリア アドバイザー	西條 高司				
65	臨時職員	亀山 映果				
66	カウンセラー	岡 里実				
67	A L T	Thomas Andrew Georgiou				
68	管理校医	山本 博尚	やまもと産婦人科			
69	校医	森 秀行	大街道もり眼科			
70	校医	小林 義臣	小林耳鼻科			
71	校医	山本 壽一	山本歯科			
72	学校薬剤師	阿部 久美子	齋藤薬局			

7 校 務 分 掌





8 生徒について

1 生徒数

学 年	1 年	2 年	3 年	計
男 子	70名	70名	73名	213名
女 子	131名	129名	112名	372名
計	201名	199名	185名	585名

2 出身中学校別・出身市町村別生徒数

出身中学	1 年	2 年	3 年	小 計	出身中学	1 年	2 年	3 年	小 計
石 卷 中	6	16	21	43	河 南 西 中	11	6	8	25
住 吉 中	23	8	12	43	雄 勝 中	0	0	1	1
門 脇 中	11	16	9	36	大 須 中	0	1	0	1
湊 中	4	4	5	13	荻 浜 中	0	0	0	0
蛇 田 中	25	22	25	72	牡 鹿 中	1	1	0	2
青 葉 中	13	14	8	35	石 卷 市 計	159	142	136	437
山 下 中	4	6	9	19	矢 本 一 中	16	14	14	44
渡 波 中	16	9	7	32	矢 本 二 中	7	17	7	31
万 石 浦 中	4	4	6	14	鳴 瀬 一 中	—	—	5	5
稻 井 中	9	6	1	16	鳴 瀬 二 中	—	—	1	1
飯 野 川 中	0	5	3	8	鳴 瀬 未 来 中	4	7	—	11
大 川 中	3	0	3	6	東 松 島 市 計	27	38	27	92
河 北 中	10	10	3	23	女 川 一 中	—	—	7	7
桃 生 中	8	3	4	15	女 川 中	3	9	—	12
北 上 中	0	3	1	4	女 川 町 計	3	9	7	19
河 南 東 中	11	8	10	29					

出身中学	1 年	2 年	3 年	小 計	出身中学	1 年	2 年	3 年	小 計
涌 谷 中	5	5	5	15	塩 釜 玉 川	1	0	0	1
籠 岳 中	1	1	1	3	塩 釜 市 計	1	0	0	1
涌 谷 町 計	6	6	6	18	し ら か し 台 中	0	0	1	1
壘 里 中	4	2	4	10	利 府 町 計	0	0	1	1
津 山 中	0	1	0	1	田 子 中	0	0	1	1
登 米 市 計	4	3	4	11	東 華 中	0	0	1	1
古 川 学 園 中	0	1	0	1	仙 台 市 計	0	0	2	2
松 山 中	0	0	1	1	白 石 中	0	1	0	1
古 川 東 中	1	0	1	2	白 石 市 計	0	1	0	1
大 崎 市 計	1	1	2	4	合 計	201	199	185	585

3 生徒通学状況

	1 年		2 年		3 年		小 計
	男	女	男	女	男	女	
徒 歩	4	10	4	13	4	11	46
自 転 車	33	45	33	49	41	49	250
バ ス	3	0	2	6	1	2	14
鉄 道	27	65	29	56	20	41	238
そ の 他	3	11	2	5	7	9	37
計	70	131	70	129	73	112	585

4 部・同好会

番号	部 名	1 年		2 年		3 年		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	
1	文 化 部	音 楽 部	1	9	1	7	1	9	3	25
2		マ ン ド リ ン 部	0	7	0	9	0	9	0	25
3		美 術 部	1	8	1	9	0	6	2	23
4		家 庭 生 活 部	0	12	0	11	0	4	0	27
5		書 道 部	0	2	0	3	0	0	0	5
6		珠 算 部	0	0	0	0	0	0	0	0
7		写 真 部	0	2	0	1	4	3	4	6
8		吹 奏 楽 部	5	22	4	24	3	17	12	63
9	運 動 部	女子バスケットボール部	0	9	0	3	0	6	0	18
10		男子バスケットボール部	9	1	6	1	5	1	20	3
11		陸 上 競 技 部	8	5	7	4	9	5	24	14
12		ソ フ ト テ ニ ス 部	6	5	6	7	7	1	19	13
13		女子バレーボール部	0	5	0	6	0	8	0	19
14		男子バレーボール部	4	1	6	1	7	0	17	2
15		卓 球 部	2	0	3	1	2	3	7	4
16		ソ フ ト ボ ー ル 部	0	8	0	2	0	7	0	17
17		剣 道 部	3	3	4	2	5	2	12	7
18		水 泳 部	0	1	0	1	2	2	2	4
19		弓 道 部	12	16	10	10	7	9	29	35
20	空 手 道 部	4	3	0	3	2	1	6	7	
21	硬 式 野 球 部	4	2	11	0	5	0	20	2	
22	同 好 会	茶 道 同 好 会	0	2	0	6	0	6	0	14
23		読 書 同 好 会	5	0	1	2	7	2	13	4
24		ワ ン ダ ー フ ォ ー ゲ ル 同 好 会	1	1	0	0	0	0	1	1
25		応 援 同 好 会	0	5	0	9	0	6	0	20
26		E S S 同 好 会	2	1	10	2	7	7	19	10
27		文 芸 同 好 会	0	0	0	4	0	0	0	3
28		地 質 天 文 同 好 会	1	0	0	0	0	0	1	0
29	J R C	1	1	3	4	0	4	4	9	
	文 化 部	7	62	6	64	8	48	21	174	
	運 動 部	52	59	53	41	51	45	156	145	
	同 好 会	10	10	14	27	14	25	38	62	
	合 計	69	131	73	132	73	118	215	381	

9 進路について

1 卒業生総数

高等女学校(旧制)		高等学校	
本科	3,044	併設中学	386
補習科	573	全日制	19,292
選科	94	定時制	1,506
補選科	33		
専攻科	104		
計	3,848	計	20,184
合		計	25,032

2 進路状況

○進学(過去26年間) ()は男子生徒の内数

年度	国公立大学	私立4年大	国公立短大	私立短大	専修・各種学校	進学合計
平成元年	13	59	13	47	69	201
平成2年	11	61	6	45	67	190
平成3年	18	68	5	47	69	207
平成4年	15	80	5	51	80	231
平成5年	18	87	6	55	56	222
平成6年	11	87	1	48	70	217
平成7年	13	86	2	51	61	213
平成8年	11	89	5	45	69	219
平成9年	10	87	8	39	60	204
平成10年	9	106	2	22	79	218
平成11年	17	108	6	15	77	223
平成12年	14	108	1	21	82	226
平成13年	11	111	9	18	61	210
平成14年	11	117	4	21	72	225
平成15年	9	95	4	16	71	195
平成16年	18	90	3	19	69	199
平成17年	26	106	0	11	51	194
平成18年	20	87	1	9	42	159
平成19年	18	93	1	7	42	161
平成20年	13 (4)	99 (26)	2 (1)	10	50 (3)	174 (34)
平成21年	10 (1)	105 (14)	2	5	53 (6)	175 (21)
平成22年	6 (1)	97 (20)	0	3	66 (9)	172 (30)
平成23年	10 (4)	115 (28)	0	7 (1)	49 (14)	181 (47)
平成24年	13 (5)	93 (33)	0	4 (0)	63 (6)	173 (44)
平成25年	14 (8)	110 (47)	0	9 (0)	43 (7)	176 (62)
平成26年	19 (10)	115 (33)	1	11 (1)	33 (6)	179 (50)

○進路別合格状況

学校名	24年度		25年度		26年度		学校名	24年度		25年度		26年度		学校名	24年度		25年度		26年度	
	計	男	計	女	計	女		計	男	計	女	計	男		計	男	計	女	計	男
北海道教育大学					1	1	成城大	1	1					石巻赤十字看護	6	6	6	6	4	4
北見工業大学					1	1	大東文化大	1	1					気仙沼病期看護	10	10	2	2		
岩手大	1	1					玉川大							東北労災看護	1	1			1	1
宮城教育大	1	1					中央大	1	1	1	1	1	1	仙台徳州看護	8	8			1	1
弘前大							津田塾大							仙台医療七期看護助	3	3	3	3	3	3
山形大	2	2	2	1	1	5	帝京大			2	2			花巻高看護			2	2		
福島大学							東海大	3	3	3	2	1	1	水沢学苑看護			1	1		
茨城大学			1	1			東京薬科大学							榎木病院附属看護			1	1	1	1
宇都宮大	1	1					東京福祉大							酒田医科大学附属看護			1	1		
千葉大	1	1					東京工大	5	4	1	1	1	1	国原医療福祉大塩谷看護	1	1				
新潟大学					1	1	東洋大							上尾中央看護	1	1			1	1
名古屋市立大	1	1					日本大	3	2	1	1			土浦協成病院附属看護	1	1				
国語公立大学					2	1	日本女子大					1	1	昭和女大附属看護					2	2
岩手県立大学					1	1	日本女子体育大					1	1	千葉労災看護					1	1
富城大	5	1	4	2	1	1	法政大	1	1					沼津第三看護	1	1				
会津大学					2	2	神奈川大	1	1					東京女子医大看護	1	1				
米沢栄美大							洗足学園音楽大	1	1					水戸医療七期附属看護	4	4				
高峰短大	1	1			2	2	神奈川工科大学					1	1	JR東京総合看護	3	3				
防衛大学校	2	2					東洋英和女学院大							社会保険看護					1	1
国公立大学計	15	7	8	15	9	6	昭和音大	1	1					小田原高看護					1	1
札幌国際大	1	1					横浜理科大学							石巻市医師会付看護	1	1			1	1
札幌学院大							帝京科学大					1	1	福島病院附属看護専					1	1
北海道科学大					1	1	駒沢大学					1	1							
弘前学院大	2	1	1				国士館大					1	1							
青森大							健康科学大							1	1					
岩手医大	2	2					新潟医療福祉大							2	2					
盛岡大	2	2	2	1	1	2	東京経済大					1	1							
石巻専修大	4	4	9	4	6	8	東京富士大					1	1							
仙台大	3	2	1	2	1	1	明星大					1	1							
東北学院大	53	42	11	51	44	7	愛知工業大					1	1							
東北工大	9	8	1	8	2	6	大阪樟蔭女子大					1	1							
東北生活文化大	4	4	1		1	4	立命館アシア大					1	1							
東北福祉大	28	12	16	11	3	8	女子栄養大					1	1	1	1	1	1			
東北薬大	3	3	1	1		3	専修大	1	1					2	2					
宮城学院女子大	16	16	22	22	20	20	拓殖大					2	1	1	1					
尚絅学院大	12	11	15	8	7	13	東京家政大					1	1	1	1					
仙台白百合女大	7	7	12		12	9	和光大							1	1					
東北文化学園大	10	3	7	4	2	10	桜美林大							1	1					
ノースアジア大					1	1	私立大学計	197	87	110	178	83	95	217	57	159				
秋田看護福祉大					1	1	公立短大													
日赤秋田看護大	4	4	2		2	2	公立短大計	0	0	0	0	0	0	1	0	1				
東北芸術工大	3	3	2	2		3	聖和学園短	2	2	5	5	1	1							
東北公益文科大学	1	1					仙台資源学院短	4	4	2	2	5	1	4						
東北文教大学					1	1	東北生活文化大短大部							1	1					
いわき明星大					1	1	宮城誠真短							1	1					
国際医療福祉大	2	2					聖徳大短大部							2	2					
共愛学園国際大							東京女子体育短											1	1	
群馬医療福祉大					1	1	新渡戸文化短													
白鷺大							女子美大短													
つくば国際大	1	1					秋田栄美短							1	1					
神田外語大	1	1					盛岡大・短大部							1	1					
東京国際大							昭和音楽大短大							1	1					
城西大					1	1	帝京短大													
獨協大							私立短大計	6	0	6	10	0	10	14	1	13				
文教大	3	1	2																	
明治大	1	1																		
西武文理大					1	1														
城西国際大	1	1																		
聖徳大	2	2	1		1	3														
秀明大					2	1														
千葉科学大																				
大妻女子大																				
共立女子大																				
日本医療科学大	1	1																		
流通経済大	1	1																		
国立音大	1	1																		

学校名	24年度	25年度	26年度
専門学校(看護系)計	41	0	41
東北化学学園			1
宮城高等歯科衛生専			1
仙台医療福祉	4	4	1
仙台医療看護福祉	6	6	4
仙台保健専	1	1	2
東日本医療専	1	1	
仙台保健福祉専	3	3	4
東北保健医療専			1
西武学園医療技術			1
専門学校(医療系)計	15	1	55
専門学校(その他)計	31	7	24
国家公務員	1	1	3
富城県職員	3	1	2
市町村職員	3	2	1
石巻市広域消防	1	1	1
大崎市広域消防			1
石巻広域行政事務組合			1
石巻広域水道	1	1	
宮城県警	2	2	1
自衛隊学生			
自衛隊養成補生			1
公務員計	11	6	5
民間就職計	5	0	5
卒業生数	195	52	143

⑩ 防災対応組織と防火設備

1 学校防災組織

班 名	職 名	担 当 者	活 動 内 容
本 部	本 部 長	校 長	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急対応の決定 ・各班の組織化の指示と連絡調整 ・県教委、市町村災害対策本部、警察、消防、PTA等との連絡調整、報告 ・情報収集（災害状況、天候、交通状況等）の指示 ・非常持ち出し物品の指示 ・報道機関との連絡調整
	副 本 部 長	教 頭 事務室長	
	本 部 員	防 災 主 任 主 幹 教 諭 事 務 次 長	
通 報 連 絡 班 (総務部・事務室)	班 長	総務部長 伊藤(紀) 佐藤(可)	<ul style="list-style-type: none"> ・非常ベルによる周知 ・校内放送による指示 ・県教委、市町村災害対策本部、警察、消防、PTA等への通報
	班 員	須藤 菅原 杉江 阿部(聡)	
避 難 誘 導 班 (生徒指導部・図書部)	班 長	生徒指導部長	<ul style="list-style-type: none"> ・揺れ等がおさまった直後の安否確認 ・負傷者等の状況把握と本部への連絡 ・安全な避難経路の確認と避難場所への誘導 ・負傷者の搬出 ・行方不明の生徒・教職員を本部に連絡
	班 員	森本 佐瀬 原田(哲) 佐藤(和) 暮田 佐久間 齋藤 半沢 橋戸 水井 萬代	
安 全 点 検 班 (情報総合部)	班 長	企画研究部副部長	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎・施設の被害程度の調査と本部への連絡 ・化学薬品や灯油類の危険物の状況を確認
	班 員	軽部 吉田 鈴木(瞳)	
非 常 搬 出 班 (教務部・事務室)	班 長	教務部長	<ul style="list-style-type: none"> ・指導要録、共有サーバー、PC、電子情報(USB)等の持ち出し ・生徒名簿、教職員名簿の持ち出し(事務室) ・ハードディスク、無線機、財産台帳等の持ち出し
	班 員	高橋(樹) 西川 木村 岡本 遠藤 根本 早坂(昌) 内藤 早坂(寿) 事務次長 杉江 菅原	
救 護 班 (保健厚生部)	班 長	保健厚生部長	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急医薬品、担架、AED等の持ち出し ・負傷者の本部への通報 ・負傷者の救出、救命、応急手当 ・救護所(緊急保健室)の設営 ・医療機関への連絡、搬出 ・「心のケア」等の実施によるメンタル面のサポート
	班 員	高橋(公) 青木 藤坂 高橋(洋)	
消 火 班 (進路指導部)	班 長	進路部長	<ul style="list-style-type: none"> ・火災発生時の初期消火活動 ・避難誘導や救護活動等の支援(初期消火の必要がない場合)
	班 員	大庄司 渡邊 桂島 辻 奥山 相原 菊地 早坂(恵)	

2 火気取締責任者

(1) 校内の各室には火気責任者を置く。

(2) 火気取締責任者は、当該室の火気に留意し、特に発火の恐れのある部屋については、十分な対策を講じる。

3 消 火 設 備

	能力 単位	数 量	校 舎			体 育 館 部 室	賢 友 館		生 徒 会 館	部 室 棟	そ の 他
			3階	2階	1階		2階	1階			
屋 内 消 火 栓		24	5	5	6	5	1	1			1
粉 末 消 化 器 (大)	10型	70	5	8	15	15	3	5	7	2	10
避 難 器 具 (スローダウン)		3	3								

11 図 書 館

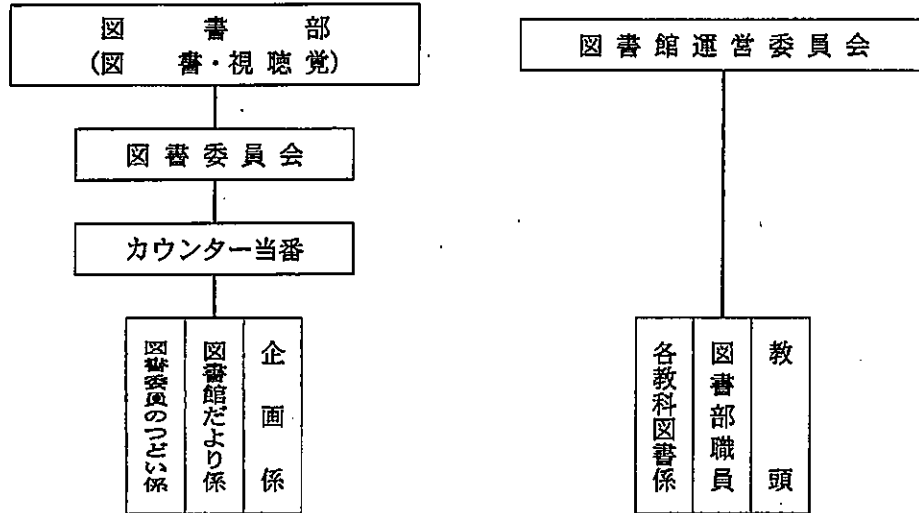
1 沿革

昭和27年4月からPTA協力のもとに3ヶ年計画で図書館建築事業が創始されたが、その間種々の関係で校舎増築事業と併行して進められ、旧来の二教室を改装し、昭和30年10月図書館が完成した。(以上、羽黒山の旧校舎時代)

昭和43年8月新校舎完成とともに、校舎内の図書館に移る。

昭和54年10月生徒会館完成に伴い、昭和55年3月の三階の現図書館に移る。

2 組織



3 設備

(1) 図書室

- 閲覧室..... 200㎡
- 司書室..... 69㎡
- 書架

(2) 視聴覚室

- 視聴覚室..... 101.25㎡
- 準備室兼教材室... 33.75㎡

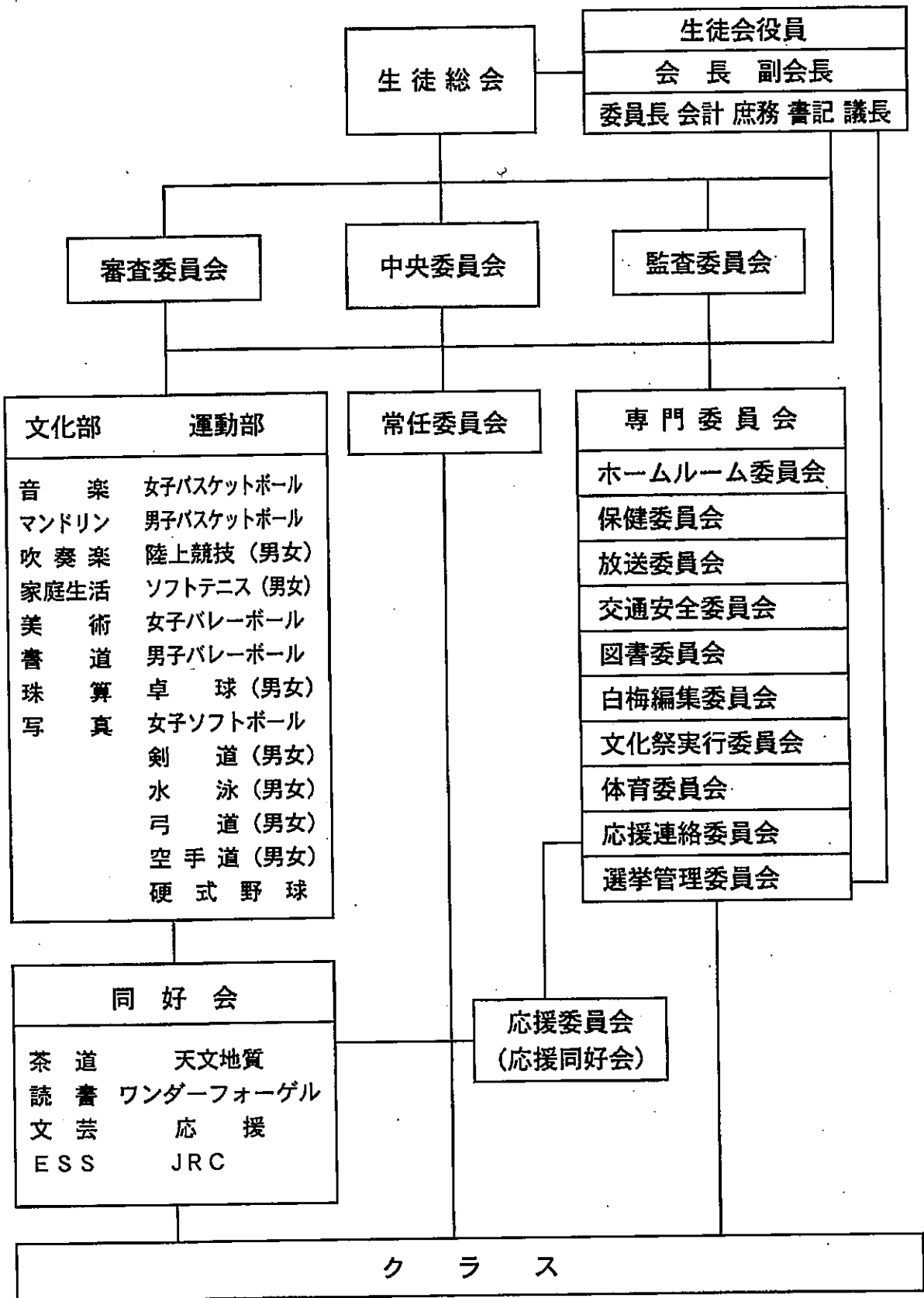
4 蔵書数

000 (総記)	989冊	700 (芸術)	2,765冊
100 (哲学)	1,022冊	800 (語学)	1,672冊
200 (歴史)	3,218冊	900 (文学)	8,625冊
300 (社会科学)	3,102冊		
400 (自然科学)	2,464冊		
500 (工業家庭)	1,410冊	読書会用	1,255冊
600 (産業)	412冊	000~900	25,679冊

5 行事予定

- | | |
|----------------|------|
| 1 読書会 | 年1回 |
| 2 館報発行 | 年1回 |
| 3 芸術鑑賞会 | 年1回 |
| 4 地区図書委員のつどい | 年1回 |
| 5 図書委員のつどい (県) | 年1回 |
| 6 図書選定 | 年2回 |
| 7 図書館だより | 年10回 |
| 8 絵本の読み聞かせ | 年2回 |

12 生 徒 会



13 P T A ・ 同窓会

1 P T A

(1) 概 要

大正15年、父兄後援会設立第1回総会が開催されて以来、本校の教育施設や教育環境の改善への援助を進めてきた。現在もPTA会則第5条の会員相互の提携協力により、生徒の福祉を増進し、学校教育の発展に寄与する目的での事業を地道に推進している。

(2) 組 織

会員は、本校の教職員及び在校生徒の保護者（保護者に代わるものを含む）の正会員と、本校の趣旨に賛同する準会員よりなり、運営の便宜上組織を次の通りとする。

ア 全校 P T A 全会員を以て組織する。

イ 学年別協議会 各学年生徒の保護者と各学年所属の教職員を以て運営する。

(3) 役 員

会 長 1名 副会長 3名 幹 事 3名 監 事 3名

事務局長 1名 会 計 2名

(4) 顧問、参与、委員

顧 問 若干名

参 与 1名（校長）

委 員 ア 学級委員（各学級2名）

イ 学年委員（各学年2名）

1名は学年委員長、他の1名は学年副委員長となる。

(5) 会 合

総 会 毎年1回開く。

役員会 随時会務の執行につき協議する。

委員会 ア 全校委員会は、役員、学年委員長、同副委員長及び会長委嘱の教職員を以て組織する。

イ 学年委員会は、学級委員及び学年所属の教職員を以て組織する。

2 同 窓 会

(1) 概 要

明治39年3月、私立石巻女学校1回卒業生より、現在25,032名（H27.3.31）の卒業生を擁し、宮城県石巻好文館高等学校同窓会と称し、卒業生相互の親睦を厚くし、知徳の研鑽を図り、母校の発展に寄与することを目的としている。

(2) 組 織

私立石巻女子実業学校卒業生、同校別科、専科、研究科、技芸科修了生、石巻町立石巻実科高等女学校卒業生、同校補習科、選科、補習科選科修了生、牡鹿郡立石巻実科高等女学校卒業生、同校補習科、選科、補習科選科修了生、宮城県石巻高等女学校卒業生、同校補習科卒業生、同校併設中学校卒業生、同校専攻科卒業生、宮城県石巻女子高等学校卒業生、宮城県石巻好文館高等学校卒業

生、及び現職員、旧職員、母校縁故者で組織する。

ア 会 員

特別会員 客員 通常会員 賛助員

イ 役 員

名誉会長	1 名 (校 長)	事務局長	1 名 (教 頭)
会 長	1 名 (同窓生)	会 計	4 名 (同窓生、学校事務職員)
副 会 長	4 名 (同窓生)	監 事	若干名 (同窓生)
監 事	3 名 (同窓生)	常任幹事	若干名 (総務部、同窓生)

(3) 運 営

ア 入会金 3,600円

イ 会 費 年額 1,000円

(4) 事業計画

ア 総会開催

イ 同窓会会報「白梅」の発行

ウ 支部総会

エ 学年幹事会

オ 全国・東北大会出場生徒の応援

14 校 地 ・ 校 舎

校 地

校舎敷地及びグラウンド.....48,209.000㎡

建 物

校舎（鉄筋コンクリート3階建）..... 6,337.86㎡
 生徒会館（鉄筋コンクリート3階建）..... 1,062.74
 講堂（体育館）（鉄筋コンクリート）..... 1,744.65
 第二屋内運動場（賢友館）（鉄骨・鉄筋コンクリート2階建）.....1,051.43
 体育館部室..... 273.00
 プール付属室兼部室棟..... 303.36
 部室棟..... 389.80
 弓道場..... 110.34
 吹奏楽練習場（木造平屋建）.....97.70
 屋外体育用器具格納庫（鉄骨）.....19.44
 書庫及び物置等..... 121.42
 機械室等..... 275.75
 計.....11,787.49

校 舎 内 容

校舎棟

普通教室	選択教室	特別教室	準備室	校長室	職員室	事務室
16	19	11	9	1	1	1
会議室	保健室	進路室	自学室	放送室	教材室	その他
1	1	1	1	1	3	4

生徒会館

集会室	大広間	生徒相談室	会議室	図書室	司書室	その他
1	1	1	2	1	1	3

講堂

アリーナ	体育教官室	放送室	更衣室	控室	器具庫
1	1	1	1	1	2

第二屋内運動場

アリーナ	柔剣道場	更衣室	器具庫
1	1	1	2

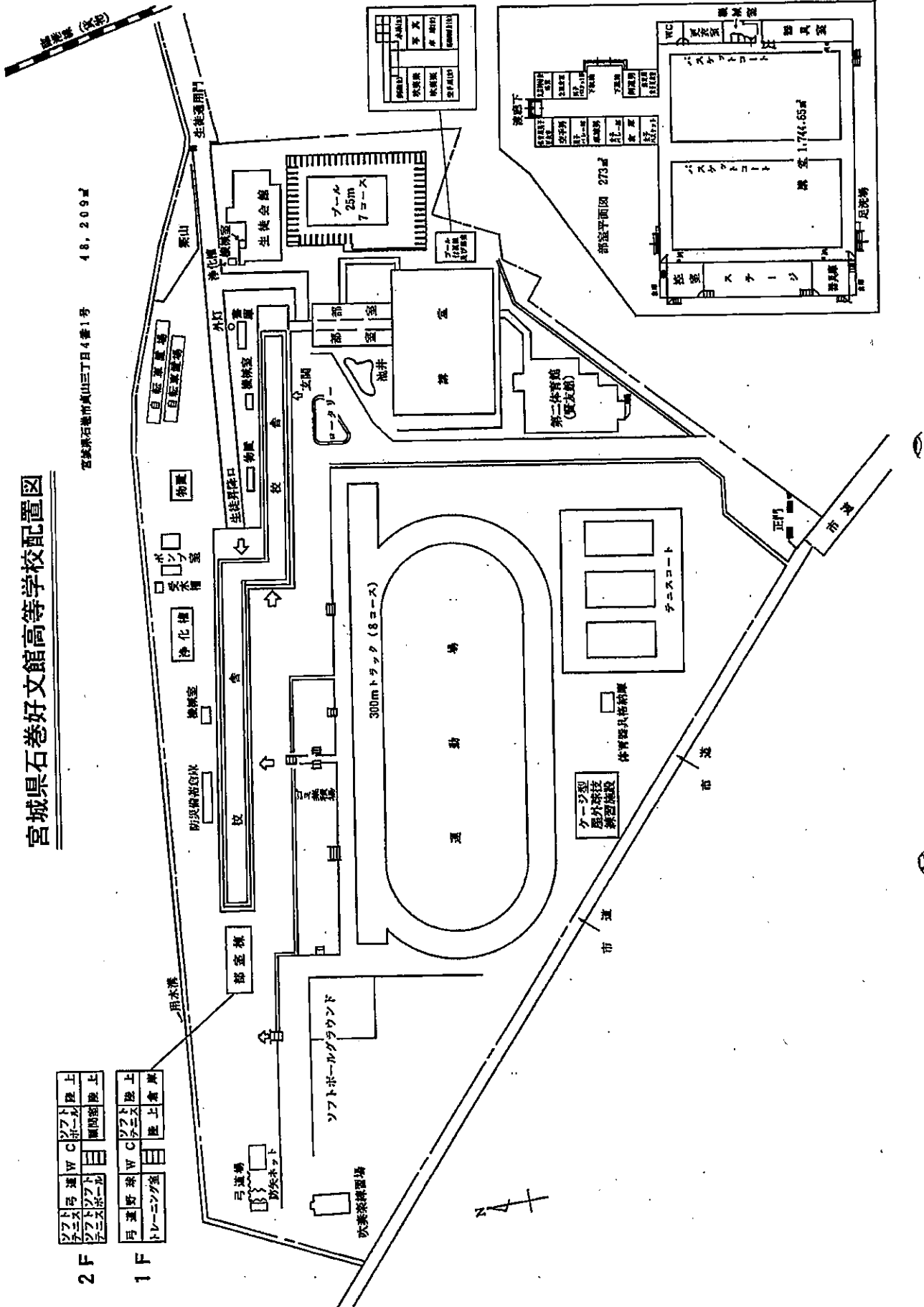
部室等

体育館部室	プール付属部室棟	部室棟			弓道場	吹奏楽練習場
		部室	トレーニング室	倉庫		
12	8	12	1	2	1	1

宮城県石巻好文館高等学校配置図

宮城県石巻市真山三丁目4番1号 48,209㎡

2F	ソフト テニス 卓球 弓道	WC ホール テニスコ テニスコ	陸上 陸上 陸上
1F	弓道 テニス テニス テニス	WC ホール テニスコ テニスコ	陸上 陸上 陸上

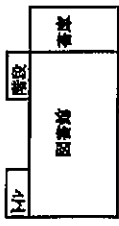
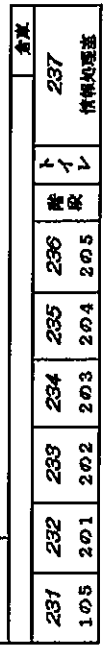
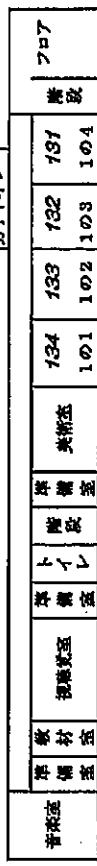


東 生徒会館
(3号棟)

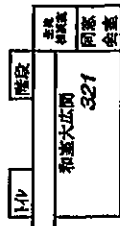
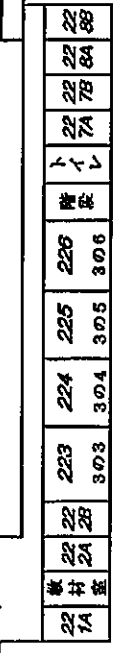
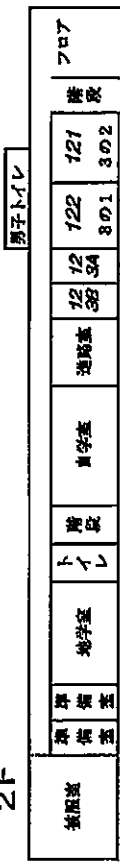
東 校舎 (2号棟)

西 校舎 (1号棟)

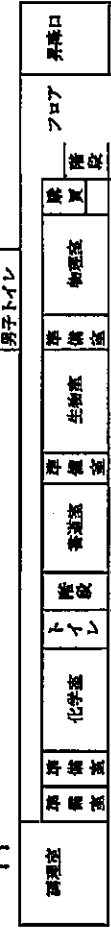
西 3F



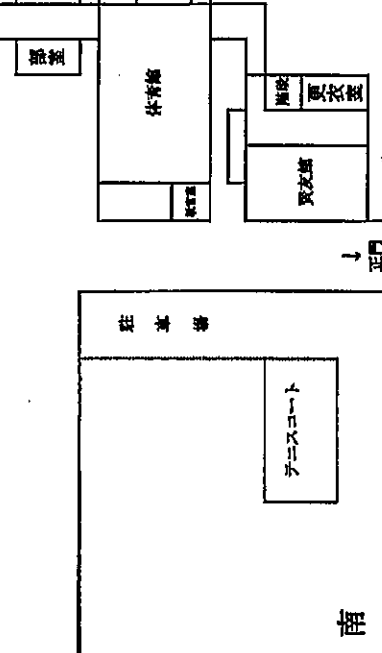
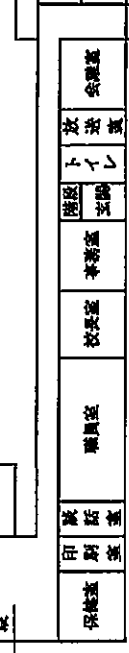
2F



1F



弓道場
吹奏楽部
ソバ-そば
新館建築



平成27年度
宮城県石巻好文館高等学校
教室等配置図

宮城の将来ビジョン・震災復興・地方創生

実 施 計 画

(再生期:平成26年度～29年度)

【平成28年度版】

抜 粋

平成27年度改訂

宮 城 県

取組17 児童生徒や地域のニーズに応じた特色ある教育環境づくり			
行動方針	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 少人数学級や少人数指導など、児童生徒の実情に応じたきめ細かな教育活動の充実を図ります。 ◇ 県立高校の再・改編や入学者選抜制度改善などにより、時代のニーズや教育環境の変化、生徒の多様化・個性化などに応じた魅力ある学校づくりを推進します。 ◇ 学校の自主性・主体性を生かした学校運営の支援や学校評価の充実などにより、地域から信頼される学校づくりを推進します。 ◇ 障害の有無にかかわらず地域の小・中学校で共に学ぶことのできる学習システムづくりを推進するとともに、知的障害特別支援学校における狭隘化への対応や軽度知的障害生徒の進路拡大を図るなど、特別支援教育の充実を図ります。 ◇ 優秀な教員を確保するとともに、教員の資質向上や学校活性化を図るため、適切な教員評価や教員研修等の充実を図ります。 ◇ 県立高校の再・改編や特別支援学校の狭隘化、軽度知的障害生徒の後期中等教育に係る受け皿不足に対応するなど、必要な施設整備を推進します。 		
目標指標等	当初	現況値	目標
外部評価を実施する学校（小・中・高）の割合（%）			
小学校	77.1%	99.2%	98.0%
中学校	74.7%	97.8%	94.0%
高等学校	100%	100%	100%
	(H20年度)	(H26年度)	(H29年度)
学校外の教育資源を活用している高校の割合（%）	58.1%	92.5%	90.0%
	(H20年度)	(H26年度)	(H29年度)
特別支援学校の児童生徒が居住地の小・中学校の児童生徒と交流及び共同学習した割合（%）	28.2%	30.5%	36.0%
	(H20年度)	(H27年度)	(H29年度)

【目標達成のための個別取組】

○ 宮城の将来ビジョン推進事業

取組の内容等	主担当 課・室	年度別計画（年度）					目標
		H25	H26	H27	H28	H29	
01 学級編制弾力化（少人数学級）事業 学習習慣の着実な定着や問題行動等の低減を図るため、小・中学校の低学年において少人数学級を導入し、きめ細かな教育活動の充実を図ります。 (H23～H32)	義務教育課						

取組の内容等	主担当 課・室	年度別計画(年度) 目標				
		H25	H26	H27	H28	H29
<p>02 高等学校入学者選抜改善事業</p> <p>時代の変化に対応した適切な高校入学者選抜方針について検討を行います。</p> <p>また、平成25年度に導入した新入試制度の定着と円滑な実施に向けて情報を提供するとともに、課題を調査・検証します。</p> <p>(H23~H32)</p>	高校教育課					
<p>03 高等学校「志教育」推進事業 分野(6)①5</p> <p>震災 (取組15から再掲) 基本目標1(2)①</p> <p>地創 高校生が自ら社会で果たすべき役割を主体的に考えながら、より良い生き方を目指し、その実現に向かって意欲的に物事に取り組む姿勢を育む教育を推進するため、地域における志教育の推進体制の充実を図るとともに、学校設定教科・科目等による志教育の推進、志教育に関する情報発信、マナーアップ運動、地域貢献活動及び特色ある高等学校づくりに取り組みます。</p> <p>(H24~H32)</p>	高校教育課					
<p>04 時代に即応した学校経営支援事業</p> <p>学校の運営における解決困難な問題に迅速かつ適切に対応していくための支援を行います。</p> <p>(H23~H32)</p>	教育庁総務課					
<p>05 学校評価事業</p> <p>開かれた学校づくりと、児童生徒や地域のニーズに応じた特色ある教育環境づくりを推進するため、学校関係者評価委員会を設置し、学校評価の充実を図ります。</p> <p>(H23~H32)</p>	高校教育課					
<p>06 特別支援教育システム整備事業</p> <p>インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育を着実に推進するため、学校の設置者及び学校が障害のある子どもに対して、その状況に応じて提供する「合理的配慮」の実践事例を収集するとともに、交流及び共同学習や居住地校学習を実施し、その成果の普及を図ります。</p> <p>(H23~H25) → (H23~H29)</p>	特別支援教育室					
<p>07 特別支援教育研修充実事業</p> <p>障害のある幼児児童生徒に対する校内支援体制の充実に向けたコーディネーター養成や、管理職、特別支援教育担当教員等に対する研修を行います。</p> <p>(H23~H32)</p>	特別支援教育室					

取組の内容等	主担当 課・室	年度別計画(年度) 目標				
		H25	H26	H27	H28	H29
08 特別支援教育地域支援推進事業 幼稚園, 小・中学校, 高等学校等に在籍している障害のある幼児児童生徒に対する支援の充実と特別支援学校の地域のセンター的機能の強化を図ります。 (H23~H32)	特別支援教育室					
		特別支援学校における地域支援関係活動の実施回数 [年間] 764回 (H20) →1,500回 (H29)				
09 医療的ケア推進事業 特別支援学校に通学する医療的ケアが必要な児童生徒の学習環境を整備します。 (H23~H32)	特別支援教育室					
10 発達障害早期支援事業 (取組15に再掲) 発達障害のある幼児児童生徒に関する保護者等の理解の促進及び市町村における支援体制の充実を図り, 子どもの就学前から就学後に至るまで切れ目のない支援体制の確立に向けた取組を進めます。 (H23~H25) → (H23~H30)	特別支援教育室					
11 実践的指導力と人間性重視の教員採用事業 教員採用選考方法の改善を行い, 教育課題への対応に積極的に貢献できる優秀な人材の確保に努めます。 (H23~H32)	教職員課					
12 教職員CUP(キャリア・アップ・プログラム)事業 教職員の一層の資質・能力の向上のため, 経験段階や職能に応じた各種研修や特定の課題に関する研修等を充実させます。 ※心のケア研修事業 分野(6)①3 基本目標3(3) ※防災教育等推進者研修事業 分野(6)①4 基本目標4(4) (H23~H32)	教職員課					
13 県立高校将来構想推進事業 分野(6)①1 県の復興計画や各地域の復興の方向性などを踏まえて策定される「新県立高校将来構想」(平成23~32年度)の実施計画に基づき, 再編及び学科改変に伴う学校施設や教育環境の整備を進めます。 (H23~H32)	教育企画室 高校教育課					

取組の内容等	主担当 課・室	年度別計画(年度) 目標				
		H25	H26	H27	H28	H29
<p>14 特別支援学校校舎改築事業</p> <p>知的障害特別支援学校の狭隘化解消への対応や軽度知的障害生徒の進路拡大に向けた施設整備を行います。</p> <p>(H23~H27) → (H23~H28)</p>	特別支援教育室 施設整備課					
<p>15 私立学校施設設備災害対策支援事業</p> <p>私立学校設置者が行う学校施設設備の非構造部材の耐震化など、災害対策事業に要する経費の一部を補助し、私立学校の防災対策を支援します。</p> <p>(H25) → (H25~H28)</p>	私学文書課					
<p>16 共に学ぶ教育推進モデル事業</p> <p>障害のある(特別な支援を要する)児童生徒が地域の学校に在籍し、障害のない児童生徒と「共に学ぶ」場合に必要で、効果的な教育方法や校内体制の確立に向けて、モデル校・モデルエリアを設定し、各種専門家等の派遣による支援を行います。</p> <p>(H27~H32) → (H27~H31)</p>	特別支援教育室					
<p>17 非予算的手法：高等学園進路就労定着支援事業</p> <p>地創 基本目標1(2)⑥</p> <p>平成28年4月に開校する女川高等学園において、在学中から教育・福祉・労働等の関係機関との連携を図り、地域の支援体制のもと、就労の定着と社会的自立に向けた円滑な移行を支援します。</p> <p>(H27~H32)</p>	特別支援教育室					

○【宮城の将来ビジョン推進事業】取組にかかる「再生期」(4か年)の事業費見込額(再掲分含む)
 総事業費：11,926百万円(うち県事業費：11,813百万円)

○ 取組17に関連する宮城県震災復興推進事業

No.	分野番号	事業名
01	(6)① 1	県立学校施設災害復旧事業
02	(6)① 1	県立学校教育設備等災害復旧事業
03	(6)① 1	校舎等小規模改修事業
04	(6)① 1	市町村立学校施設災害復旧事業
05	(6)① 1	私立学校施設設備災害復旧支援事業
06	(6)① 1	私立学校施設設備災害復旧支援利子補給事業
07	(6)① 1	私立学校等教育環境整備支援事業
08	(6)① 1	県立高校将来構想管理事業
09	(6)① 5	非予算的手法：「地域復興に係る学校協議会」事業

○【宮城県震災復興推進事業】「再生期」(4か年)の事業費見込額(再掲分含む)

総事業費：48,174百万円(うち県事業費：29,220百万円)

○ 取組17にかかる「再生期」(4か年)の事業費見込額(再掲分含む)

総事業費：60,101百万円(うち県事業費：41,033百万円)

宮城県 教育振興 基本計画

— 概要版 —

平成 22 年 3 月

宮城県・宮城県教育委員会

宮城県教育振興基本計画

◆ 計画の位置づけ

- 人口減少社会の到来、情報化や国際化の一層の進展、地方分権社会への移行など社会情勢が大きく変化するなか、「人づくり」である教育の重要性は一層高まっており、学校教育だけでなく生涯にわたる期間を通じて、次代の地域社会を支え、未来を創造する人づくりに取り組んでいく必要があります。
- 国では平成18年の教育基本法の改正を契機に、新たな教育の目標・理念に基づく取組を進めていますが、同法第17条第2項の規定により地方公共団体も地域の実情に応じ、教育振興基本計画の策定に努めることとされています。
- 本県では、これまで「宮城県教育基本方針」のもと、学校教育、スポーツ、生涯学習等分野ごとの基本計画を策定し、また県政運営の基本的な指針である「宮城の将来ビジョン(平成19年3月策定)」では優先的・重点的に取り組むべき教育施策を掲げているところですが、教育施策全般を総合的、体系的に位置づけた基本計画は未だ策定していないことから、本県教育を総合的、計画的に進めていくため、本計画を策定するものです。
- 本計画は、本県教育の振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、本県の教育の目指すべき姿や講ずべき施策の方向性等を示す計画とします。
- 本計画は、将来の宮城県のあるべき姿や目標を県民と共有し、その実現に向けて県が優先して取り組むべき施策を明らかにする「宮城の将来ビジョン」との一体性に配慮しながら策定しています。

◆ 計画の期間

10年間(平成22年度～平成31年度)



本県教育の目指す姿と計画の目標

目指す姿

本計画を着実に進めることにより、計画期間である10年間を経過した段階で次のような姿が実現していることを目指すものです。

学校・家庭・地域の強い絆きずなのもとで、よりよい未来を創造する高い志こころざしを持った、心身ともに健やかな子どもが育っています。

そして、人々が生きがいを持って、生涯にわたり、多様に学び、交流する中で、潤いのある文化を守り育む地域社会が形成されています。

計画の目標

目標1

夢と志こころざしを持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間はぐくを育む。

目標2

次代を支える社会の一員として、歴史が培ってきた文化や規範を尊重し、思いやりの心に富んだ人間はぐくを育む。

目標3

学校・家庭・地域の教育力の充実と連携の強化を図り、宮城の豊かな教育資源を生かしながら、社会全体で子どもを守り育てる環境をつくる。

目標4

生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。



施策の展開

目指す姿

学校・家庭・地域の強い絆のもとで、よりよい未来を創造する高い志を持った、心身ともに健やかな子どもが育っています。

そして、人々が生きがいを持って、生涯にわたり、多様に学び、交流する中で、潤いのある文化を守り育む地域社会が形成されています。

計画の目標

● 目標1 ●

夢と志を持ち、その実現に向けて自ら考え行動し、社会を生き抜く人間を育む。

● 目標2 ●

次代を支える社会の一員として、歴史が培ってきた文化や規範を尊重し、思いやりの心に富んだ人間を育む。

● 目標3 ●

学校・家庭・地域の教育力の充実と連携の強化を図り、宮城の豊かな教育資源を生かしながら、社会全体で子どもを守り育てる環境をつくる。

● 目標4 ●

生涯にわたり学び、互いに高め合い、充実した人生を送ることができる地域社会をつくる。

施策の基本方向

基本方向1

学ぶ力と自立する力の育成

基本方向2

豊かな人間性や社会性、健やかな体の育成

基本方向3

障害のある子どもへのきめ細かな教育の推進

基本方向4

信頼され魅力ある教育環境づくり

基本方向5

家庭・地域・学校が協働して子どもを育てる環境づくり

基本方向6

生涯にわたる学習・文化・スポーツ活動の推進

施策の基本方向

基本方向1

学ぶ力と自立する力の育成

(1) 小・中・高等学校を通じた「志教育」の推進 **重点的取組1**

児童生徒一人一人が将来の職業人、社会人としての自己を見据えて、主体的に学ぶ意欲と目標を持って努力していけるよう、小・中・高等学校を通じて勤労観や社会性を養い、自らの生き方について主体的な探求を促す「志教育」を推進していきます。

(2) 基礎的な学力の定着と活用する力の伸長 **重点的取組2**

児童生徒一人一人が「分かる喜び」を実感しながら学力を身に付けられるよう、校内研修への支援などを通じた教科指導力の向上、少人数指導による指導体制の充実、家庭・地域と連携した基本的生活習慣や学習習慣の確立などに取り組んでいます。

(3) 幼児教育の充実

幼稚園教員や保育所保育士の研修の充実により資質向上を図るほか、幼稚園・保育所・小学校の連携と交流を促進し、小学校への円滑な移行を図ります。また、人格形成の基礎となる幼児期における「学ぶ土台づくり」の形成に取り組めます。

(4) 伝統・文化の尊重と国際理解を育む教育の推進

自国や郷土の歴史の理解を深めるとともに、他国の文化の理解や小学校からの外国語活動を行い、共に生きていくための能力や態度を育成します。

(5) 時代の要請に応えた教育の推進

高度情報化社会に対応できるよう、発達段階に応じた情報活用能力を育成するとともに、情報モラル教育を推進します。また、宮城の豊かな自然を生かした体験活動等を通じて、地域に根ざした環境教育を推進します。



基本方向2

豊かな人間性や社会性、健やかな体の育成

(1) 感性豊かでたくましい心を持つ子どもの育成と支援 **重点的取組3**

様々な体験活動、文化活動等の推進を通じて、規範意識の醸成やコミュニケーション能力の育成を図るほか、いじめ、不登校等に対応する教育相談活動の充実、関係機関が連携したネットワークの構築など、多様な支援に取り組めます。

(2) 健康な体づくりと体力・運動能力の向上 **重点的取組4**

子どもたちがスポーツに親しみ、自ら体を動かそうという意欲を引き出すため、授業や行事を通して運動好きな子どもを育てる学校教育の推進、専門的指導力を有する地域人材の運動部活動等への活用などの取組を進めていきます。

(3) 災害に積極的に向き合う知識と能力の育成

周期的に発生する地震について正しい知識を備えるなど、自然災害に向き合いながら生きていく力を身に付けさせるため、子どもたちの成長段階に応じ、系統的な防災教育を推進します。

(4) 食に関心を持ち、元気な子どもの育成

食に関する指導が計画的に実施されるよう、学校給食と各教科との関連を図った指導の充実をめめます。また、宮城の食文化についての理解を深め、食に関する体験や交流を通じた食育の推進を深めます。

(5) 心身の健康を保つ学校保健の充実

各学校において、学校保健計画を策定し、児童生徒の健康の保持増進を図るとともに、家庭や地域の医療機関をはじめとする関係機関と連携し学校保健の充実を図ります。



障害のある子どもへのきめ細かな教育の推進

(1) 一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進 **重点的取組5**

発達障害を含め障害のある子どもの自立や社会参加に向けて、一人一人の発達段階や障害に配慮した校内支援体制を構築するとともに、特別支援学校が、地域における特別支援教育のセンターの役割を担うよう、相談・支援機能の充実を図ります。また、特別支援学校における知的障害を有する児童生徒の増加に対応した教育環境の整備に努めます。

(2) 障害のある子どもの自立と社会参加の支援

障害のある子どもの進路選択や就労を支援するため、教職員の研修の充実を図るとともに、地域の産業界及び労働、福祉、教育等関係機関が連携し、職業教育や就労支援の充実を図ります。

信頼され魅力ある教育環境づくり

(1) 教員が学び続けるための体系的な研修の推進 **重点的取組6**

教員の資質の向上や学校の抱える課題に対応するため、各校種間の連携強化を図るほか、各学校において校内研修の充実を図ります。また、教職経験に応じた体系的な研修の充実及び改善を図ります。

(2) 開かれた学校づくりの推進 **重点的取組7**

教育活動や学校の運営の自律的改善を図るため、学校評価の充実に取り組むほか、学校評議員制度等を活用し、保護者や地域住民の学校運営への参画を進めます。また、専門的知識や技能を有する社会人を講師として活用します。

(3) 優れた人材の確保と能力を発揮できる教職員人事システムの確立

教員採用選考の工夫・改善を推進し、実践的指導力や豊かな人間性を持った優れた教員の確保に取り組みます。また、教職員評価制度の更なる改善により、教職員一人一人に自己能力の分析を促し、資質の向上と学校の活性化を図ります。

(4) 教職員を支える環境づくりの推進

研修・研究機能や相談・支援機能を有する研修の中核施設の整備を推進します。また、教員が子どもと向き合う時間を確保するとともに、メンタルヘルス対策などの健康管理を計画的に行っていきます。

(5) 県立高校の改革の推進

社会で活躍するために必要となる知識・技能の定着や人間関係を構築する力の育成を図るため、習熟度別授業をはじめ各種の取組を推進するほか、地域のニーズを踏まえた学校づくりを行い、再編整備も視野に入れながら効率的かつ効果的な施設整備を推進します。また、より公正かつ教育効果の高い入学者選抜制度への改善を進めます。

(6) 学習環境の整備充実

児童生徒が安全で質の高い教育環境のなかで安心して学べるよう、県立学校の計画的な改修や教材教具の充実を図ります。また、経済的理由により修学が困難な高校生等に対し、奨学金制度による支援を行います。

(7) 私学教育の振興

私立学校の教育条件の維持向上及び私立学校に通学する児童生徒の保護者の経済的負担軽減を図るとともに、建学の精神に基づく特色ある学校づくりを進めていくため、助成を行います。

(1) 親の「学び」と「子育て」を支える環境づくり **重点的取組8**

親としての「学び」と「育ち」を支える学習機会や子育て相談等の場の提供、地域で家庭教育や子育てを支援する人材の育成を行うなど、関係機関や企業、NPO等と連携しながら、地域全体で家庭教育と子育てを支える環境づくりを進めます。

(2) 地域と学校との協働による学校支援の仕組みづくり **重点的取組9**

地域と学校を結ぶ協働教育が円滑に推進されるよう、組織づくりや活性化に関して市町村に支援や助言を行うほか、人材の育成を推進します。また、地域ぐるみの学校安全体制の整備や、地域住民主導による総合的な環境浄化活動を推進します。

(3) 子どもたちの体験活動の推進

世代間の交流の推進や自然体験活動、社会体験活動を通じて地域の環境・歴史や産業について学ぶことにより、豊かな心、社会性、自ら考え行動する力等の育成を図ります。

(1) 地域をつくる生涯学習・文化芸術の推進 **重点的取組10**

個人や社会のニーズに応じた学習機会を充実し、その成果を地域に還元できるよう支援するとともに、社会教育施設における取組や文化芸術活動への参加の推進により地域の教育力の強化や地域文化の活性化を図ります。

(2) 文化財の保護と活用

先入によって築かれ、大切に守られてきた文化遺産を、良好な形で保存し、後世に引き継ぐとともに、郷土の歴史・文化等についての理解を深めながら、これを受け継いでいこうとする意識を高めます。

(3) 生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の充実 **重点的取組11**

総合型地域スポーツクラブの支援や学校施設の開放等により、だれもが、どこでも、いつでも、いつまでもスポーツに親しめる環境を整え、充実したスポーツライフを送ることができる社会を目指します。

(4) 競技スポーツ選手の強化に向けた環境の充実

全国レベルの大会や国際大会で活躍できるよう、競技スポーツの選手育成強化や支援体制の整備を進めます。また、県有スポーツ施設の整備やスポーツ情報提供等の条件整備を進めます。



計画の推進

◆ 計画の推進に向けた施策の在り方

- 本計画の推進のために実施する施策を具体的に示すアクションプランを策定します。当初は平成22年度から4年間について策定し、各施策の進捗状況の把握、達成状況の評価等を行い、次期のアクションプランを策定します。
- 本計画の着実な推進を図るためには、進捗状況を常に把握するなどの確な進行管理を行う必要があります。アクションプランに定めた施策については、PDCAサイクルの考え方に基づく進行管理を行っていきます。



◆ 関係機関、関係団体等との連携

- 県立学校や市町村教育委員会が所管する学校においても、本計画に対する理解を深め、着実な取組がなされる必要があります。このため、市町村教育委員会との間で十分な意見交換等を行い、共通認識の形成を図っていきます。
- PTA等の教育関係団体との連携・協力体制を強化するとともに、高等教育機関や民間団体等との連携・協力体制も構築していきます。
- 教育委員会を中心として、関係部局相互の連携をこれまで以上に緊密にして、各施策が相乗的な効果を生み出すよう努めていきます。
- 必要に応じ、国に対して制度の見直しや施策の提案等の働きかけを行っていくとともに、必要な財政上の措置や教員定数等の改善等についても要請していきます。

◆ 県民総がかりによる教育施策の展開

社会総がかりで次世代を育てるためには、教育関係者や保護者、産業界、そして一般県民の理解と協力が不可欠であるため、広く理解を得られるよう、本計画とアクションプランに示す施策の内容や目標等に関して、積極的に周知を図ります。

編集・発行

宮城県教育庁教育企画室

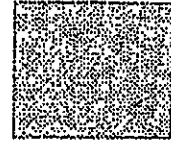
〒980-8423 宮城県仙台市青葉区本町三丁目8番1号

TEL 022-211-3616 FAX 022-211-3699

E-mail kyoikup@pref.miyagi.jp

URL <http://www.pref.miyagi.jp/kyou-kikaku/>

計画の全文は、上記ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。



新県立高校将来構想

(平成23年度～平成32年度)

抜粋

平成22年3月

宮城県教育委員会

第3章 今後の県立高校教育の在り方

1 本県高校教育における人づくりの方向性

社会経済環境の変化や高校教育に対する社会的要請などを踏まえ、今後の県立高校教育においては、以下の2点に焦点を当てながら「未来を担う人づくり」を推進していきます。

(1) 主体的に生き抜く力の育成

これまで以上に激しい変化が予想される時代の中で、たくましく自らの進路を切り開いていくことのできる力を育成していくことが不可欠です。

そのためには、国際化、情報化がますます進展し、知識が社会を動かす重要な基盤になっていく時代においては、その基礎となる知識や技能を確実に身に付けることが重要であり、併せてそうした基礎的知識・技能を活用していく力を着実に修得することが必要です。

その上で、周囲の環境や社会動向を的確に把握しながら、自らが果たすべき役割を認識し、主体性をもって自律的に行動できる姿勢を育成するなど、時代を生き抜いていく力を育成していきます。

(2) 人と関わる力の育成

個人としての知識や技能の修得とともに、社会を構成する一員として、また将来の職業人として、他者との関わりの中で共に生きていくための能力についても、知識等と並ぶ重要な能力として育成していくことが不可欠です。

また、価値観が多様化している時代にあって、働くことや社会に貢献することの意義を理解し、社会人としての態度や責任感を着実に涵養していくことや、今後、社会の在り方が複雑になっていく中では、多様な人々が持っている知識や経験をつないで新しい価値を生み出したり、課題を解決していくことも重要となります。

このため、自分の意見を的確に伝え、意見や立場の異なる人を尊重しながら、目標に向けて人と協力できるコミュニケーション能力や能動的に人との関係を築いていく力、さらには協調性、柔軟性など、人と関わる力を育成していきます。

2 高校教育改革の取組の方向性

「主体的に生き抜く力」と「人と関わる力」を高校教育で育成していくために、教育内容においては「学力の向上」と「キャリア教育の充実」を推進するとともに、それを支える学校づくりの観点から「地域のニーズに応える高校づくりの推進」、そして教育条件整備の点からは「教育環境の充実、学校経営の改善」の4つに重点をおいて取り組みます。

(1) 学力の向上 ー学び続けるための基礎力づくりー

① 基礎基本となる知識の定着

高校教育における学習活動は、義務教育段階で身に付けた土台の上に社会で活躍するために必要な基礎的・基本的な知識や技能を修得するものであり、生徒が自らの将来を見据え、希望する進路を達成することが大きな目標となっていることから、全ての生徒に対して進路実現に必要な学力を養うことが求められています。そのため、習熟度別授業や少人数の授業展開など学習形態の工夫による学習内容の定着率向上、日々の宿題など適切な課題提供による家庭学習習慣の定着等、学習の質の確保や向上のに向けた取組を行います。

② 知識を活用した課題解決力の育成

知識基盤社会においては、生涯にわたって学び続けることが求められることから、学力向上の取組に当たっては、単なる知識の積み重ねにとどまらず、知識を活用して直面する課題を解決する力を養うことが求められています。そのため、修得した知識を現実の事象に適用したり、様々な知識を組み合わせる分析・考察したりする学習活動を展開するなど、様々な指導上の工夫を行います。

③ 人間関係を構築する力の育成

生徒が社会の構成員として他者との関わりの中で生きていくためには、コミュニケーション能力とともに、良好な人間関係を構築する力、自省的な態度や自尊感情等を育成することが求められています。そのため、学校行事や部活動、生徒会活動や学級活動を通して、自主性や協調性を^{はぐく}育むとともに、互いの信頼関係の構築や基本となる徳性・体力を養うなど、生徒の発達段階に応じた的確な指導を行います。

④ 学校外の教育資源の活用

こうした学び続けるための基礎力づくりに向けて、地域社会や産業界など学校外の教育資源をこれまで以上に学校内の指導に活用することが、生徒に社会との連関を自覚させ、学ぶ意欲を涵養するという観点からも、今後一層重要になるものと考えます。これまで工業高校や商業高校などの専門高校を中心に、インターンシップなど地域の産業界をはじめ学校外の教育資源を活用した取組が行われてきましたが、今後は学科を問わずすべての高校において、積極的に学校外の教育資源を活用した取組を行います。

(2) キャリア教育の充実 ー志（こころざし）教育の推進ー

① 勤労観・職業観の育成

社会の構成員として、自らの適性に応じて社会の発展に貢献し得る在り方・生き方を見定め行動できるようにするために、確固とした勤労観、職業観を育てていくことが求められています。特に、高校は、社会に対しての理解がより深まる時期であるとともに、社会に出るための最終準備段階でもあることから、様々な人生や仕事の在り様に触れ、自らの具体的な生き方を探るキャリア教育の充実に取り組みます。

こうしたキャリア教育を充実させることは、自己の進路目標の明確化を促し、その実現に

向けての様々な努力の原動力となることから、社会人として必要な態度や知識・技能の修得とともに学力の向上にも大きな影響を及ぼすものと考えています。

このような自己の適性等と社会の中で果たすべき役割の自覚を通して、学ぶことの意義の理解を促しながら、勤労観や職業観を涵養し、主体的に進路を選択する能力や態度を育成する一連の取組を、本県では「志教育」と位置づけ、小・中・高等学校を通じた系統的な教育活動の中で推進していきます。

② 変化に対応できる基本姿勢の育成

産業構造の変化や技術革新の加速化、価値観の多様化などにより、特に先端的な知識や技能ほど陳腐化するスピードが速くなりつつあります。このような時代の中で、職業人として社会に貢献していくためには、知識や技能を常に更新し磨き上げていくことが求められます。このため、職業系学科における専門教育の充実をさらに図るとともに、職業系以外の学科も含めて社会の変化に対応できる基本的な姿勢を高校教育において身に付けさせます。

(3) 地域のニーズに応える高校づくりの推進 ー地域とともに生きる高校づくりー

① 地域とつながる高校づくりの推進

高校は、小学校、中学校という義務教育段階と大学や専門学校での教育、そして社会とをつなぐ存在であるため、こうしたつながりを意識しながら高校教育に取り組みます。同時に、高校は、その所在する地域社会における人材育成の役割を担っていることから、地域における学科バランスや学校規模、あるいは新しい学科の設置など、地域のニーズも踏まえた学校づくりを進めます。

なお、地域の産業界などとの連携に当たっては、学校外の教育資源の活用という視点だけでなく、高校の地域貢献との両面から、さらに幅の広い連携体制を構築します。

② 開かれた高校づくりと安全対策の強化

本県では、学校評議員制度が全ての県立高校で導入されたほか、学校自由見学日の設定や学校施設の地域開放など、開かれた学校づくりを推進してきましたが、これまで以上に家庭や地域との連携が求められる中で、より積極的に学校情報を発信して、地域や保護者の理解を得るとともに、それらの意向の把握にも努めながら、地域の一層の信頼に添えていきます。

このような開かれた学校づくりをさらに進めることは、不特定多数の学校外の人間を学校に取り入れることになるため、学校運営における特に重要な事項として、必要かつ十分な安全対策を講じていきます。そのため、学校における危機管理マニュアルを適時適切に改訂するとともに、全ての教員の共通理解と確実に実践できる態勢整備を図ります。

(4) 教育環境の充実、学校経営の改善 ー少子化時代における魅力ある教育環境づくりー

① 教員の資質の向上

教育の質の向上は、生徒を直接指導する教員の資質にかかっています。したがって、高校生の学ぶ環境を充実していくためには、教員一人一人の教科の指導力、即ち授業力を向上させることが必要です。このため、授業力の向上を目指した教育委員会の主催による研修会な

どに加え、日々の教材研究や各高校における校内研修の充実等により、教員の資質向上に向けた校内体制を構築します。

② 学校改善の定着

教員の資質向上と併せて重要なことは、学校経営における「改善の循環」を定着させることです。教育においては、「不易と流行」を見極めることが必要であり、「不易」以外の部分については、校長のリーダーシップにより、可能な限り速やかに見直しが行われるよう、社会の変化に連動した必要な改善に速やかに着手できる仕組みを整備していきます。

これまで、学校評議員や学校評価制度の導入により、「PDCAサイクル」による学校経営の改善への取組が始まっていますが、適時性や効果の検証面においてはまだ不十分な点が多いことから、今後、生徒や保護者の意見を十分参考にした学校による自己評価に加え、学校評議員などを活用した学校関係者評価を定着させ、地域の高校として、学校内外の声を踏まえた学校経営の「改善の循環」を促進します。

③ 効率的・効果的な施設整備の推進

学校施設・設備の整備は、教育環境の充実という観点から重要な要素であり、今後、各高校における教育活動に支障の生じないよう、施設設備の計画的な整備を進めます。併せて、生徒数減少に連動した高校再編も視野に入れ、効率的な施設・設備の整備を推進するとともに、各学校の特色ある教育活動の充実に配慮した整備を進めます。

④ 多様な生徒の受け入れ態勢の整備

不登校傾向の生徒やコミュニケーション能力に問題を抱える生徒あるいは発達障害のある生徒等への対応として、今後、校内での受け入れ態勢のより一層の整備・充実を図ることが求められています。そのため、教員の発達障害等に対する理解促進や適切な対応に向けた研修会の充実を図ります。

第4章 社会の変化に的確に対応した学科編成・学校配置の考え方

前章で述べた今後の本県高校教育における「人づくりの方向性」と、その実現に向けた「高校教育改革の取組の方向性」については、いずれの学科・学校においても、それぞれの特色を活かしながら取り組んでいくことが必要です。また、生徒数減少や産業構造の変化など様々な社会変化に的確に対応しながら進めていくために、現将来構想におけるこれまでの取組も踏まえつつ、以下の方針により学科等の在り方や学校配置を考えていきます。

1 学科等の在り方

学科等の在り方については、普通教育及び専門教育を学べる基本的な体制を確保しながら、本県の産業構造・就業状況の変化、各地区の学校配置、産業構造などの違いなどを踏まえた各種学科の配置を行います。また、社会の動き等を踏まえた特色ある専門教育とともに、様々な生徒の実態や保護者・生徒のニーズなども踏まえた多様な学びや進路希望に対応した学科・課程などにも配慮していきます。

(1) 全日制課程

① 普通科

普通科は、普通教育を通して、幅広い教養と知識を身に付けるとともに、大学、専修学校への進学など将来の進路を見極め、その進路に向かうための教育を主とする学科です。

平成21年4月現在、普通科が設置されている県立高校は54校で、募集定員の約3分の2を占め様々な生徒が普通科で学んでいる現状にあり、高校の規模や教育方法等の多様化が進んでいます。

本県の発展を支えるためには、大学等高等教育機関において高度な知識や幅広い見識を身に付けた人材が地域に定着することが大切であり、その意味で大学等に円滑に接続できる教育課程を持つ普通科の役割は重要であることから、本県の大学等進学率の向上などについても一層取り組みます。

また、普通科高校の中には、多様な進路希望を持つ生徒が多い高校もあることから、学習目標の明確化や、社会の中での在り方・生き方を考えながら、勤労観・職業観を醸成するキャリア教育の充実に取り組みます。

さらに、地域や生徒の実態に応じた学校設定科目を積極的に導入するなど、各学校の教育課程を工夫していきます。

② 専門学科（職業系学科）

本県においては、職業に関する専門学科として、農業・工業・商業・水産・家庭・看護に関する学科が設置されており、中堅技術者、事務・サービス業従事者など地域を支える職業人を育成してきました。

今後も、職業系学科においては、将来のスペシャリストとして必要とされる専門性の基礎的・基本的な知識・技術を重点的に修得させ、生涯にわたって社会で活躍できる人材を育成する役割を担っていきます。

技術革新の進展、国際化、情報化、サービス産業化など産業社会の動向に対応した学科の改編を進めてきましたが、近年は、特にものづくり産業の立地が進んできたことから、こうした社会の変化に対応した魅力ある学科への改編を進めます。一方で、産業構造の大きな変化により、農業に関する学科などにおいては、卒業後の関連産業への就職先が少なくなり、当該学科を志望する生徒数も減っている状況にあることから、生徒や地域のニーズ、社会の変化などを踏まえながら、配置も含めた在り方を検討していきます。

また、経済の変化が一層早くなり、少子高齢化が進む社会状況の中で、求められる能力も高度化かつ複雑多様化していることから、大学等への進学も含め、これからの時代に求められる専門教育の充実を図ります。

③ 専門学科（職業系以外の学科）

本県においては、専門学科のうち職業学科以外の学科として、理数科、英語科、体育科、美術科が設置されており、職業とは直結しない専門教育を行い、それぞれの分野における生徒の資質を伸ばしてきました。

資源の少ない我が国においては、科学技術の振興が重要であり、その土台となる理数教育の充実は欠かせないところです。また、国際化、情報化が進展している中、異文化間でのコミュニケーション能力や、感性・創造力を磨き上げる専門教育も重要です。

今後は、こうした専門教育の意義と生徒のニーズや社会の動向などを十分に踏まえながら対応していきます。

また、職業系の専門学科と同様、大学等への進学も含め、これからの時代に求められる専門教育の充実を図ります。

④ 総合学科

総合学科は、普通教科と専門教科から生徒の進路希望や興味・関心に応じて選択して学習できる学科であり、本県においては、平成7年度以降に設置が進み、平成22年度には7校となります。

総合学科においては、社会や自分の在り方について考える科目である「産業社会と人間」の履修やガイダンスなどを通じて自己の進路への意識が高まり、将来を見通して学習する姿勢が見られること、選択科目を分野ごとにまとめた多様な系列が用意されていることにより、生徒が進路希望に応じて学習できることなどが期待できる一方、系列の選択や進路選択に対する指導体制の在り方などの課題も指摘されているところです。

今後、学科の統合化等の検討に当たっては、総合産業高校の設置等の検討と併せ、それぞれの特性を踏まえて検討していきます。

(2) 定時制課程

定時制課程は、かつての勤労青少年のための教育の場としての位置づけから大きく趣を変え、現在は、勤労青少年に加え、全日制課程からの転入学者や中途退学者、不登校経験者など多様な生徒の学ぶ場として重要な役割を担っています。こうした状況を踏まえ、県内には夜間定時制6校及び昼間定時制2校以外に、多様化する生徒に対応して2部制(昼間、夜間)

又は多部制（午前、午後、夜間）定時制課程の単位制高校 4 校が設置されている状況です。

特に、2部制・多部制の定時制高校においては、生徒が自分の生活スタイルに合わせて学ぶ時間を選べること、体験的な科目を含めた多彩な選択科目の中から学びたい科目を選択することができること、習熟度別学習などのきめ細かな指導が行いやすいことなどにより、多様な生徒への学習機会の提供の在り方として効果的な側面があることから、2部制・多部制の定時制高校が設置されていない地域への設置を検討します。

(3) 通信制課程

通信制課程は、多様な学習環境の確保の観点から、年齢や職業、学習履歴にかかわらず、無理のない形で学習できる弾力性のあるシステムとして、現在、仙台第一高等学校に併設された形で1校設置されています。現在、平成 24 年に単独校としての開校を目指して整備を進めています。

これに併せて、ますます多様化する生徒に対応して、情報通信技術（ICT）を積極的に活用した学習支援や生徒の居住地に近いところで学べるサテライト校の在り方を検討するなど、さらに弾力的な学習環境の提供に努めていきます。

(4) その他の学科・学校等

① 中高一貫教育校

中高一貫教育は、従来の中学校・高校の制度に加えて、生徒や保護者が6年間の一貫した教育課程や学習環境の下で学ぶ機会をも選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進するものとして、平成 11 年度から導入可能となったものです。県内の公立学校においては、連携型中高一貫教育校が1校、併設型中高一貫教育校が1校、中等教育学校が1校設置されており、平成 22 年度には、さらに1校の併設型中高一貫教育校が開校する予定です。

連携型の中高一貫教育校では、中学校・高校の互いの教員の相互授業の実施による研修の充実や、連携した課外活動を通じた異年齢との交流が進んでいますが、連携型の高校入試の在り方や学習意欲の喚起等の点で、今後さらに検討していきます。

併設型については、中学校に入学した生徒が、まだ高校を卒業していないため、今後の成果を検証していきます。

今後の中高一貫教育校の設置の検討に当たっては、現設置校において中高一貫教育本来の趣旨に則った様々な取組を積極的に進めつつ、その成果を検証した上で見極めていきます。

② 単位制高校

単位制高校は、学年による教育課程の区分を設けず、決められた単位を修得すれば卒業が認められる高校であり、県内には、13校の単位制高校が設置されています。

単位制が導入された高校においては、科目の選択幅の拡大や習熟度別少人数指導の導入などが進んでいるところもありますが、単位制導入の成果と課題について引き続き考察するとともに、きめ細かな指導を行うことにより、生徒の目的意識の明確化を図り、学習意欲の向上につなげていきます。また、それぞれの学校や地域の特性に応じた科目開設など、教育内

容の一層の充実を図ります。

③ 総合産業高校

社会の変化や産業の高度化・多様化に伴い、農業・工業・商業等の専門的な知識や技能の上に、学際的な分野の知識・技能をあわせ持った人材が求められています。こうしたニーズに対応するため、複数の職業系専門学科を置き、生徒が特定の学科に所属しながら一定の範囲内で他の専門学科の科目を選択して学習できる総合産業高校を設置します。

特に中学校卒業生数が少ない地区では、専門学科高校を単独で存続させることが困難になることも予測される中で、複数の専門高校の再編等により、弾力的で特色ある教育課程の編成などを行い、学校・学科の教育内容をより特色と魅力あるものにします。

2 学校配置の考え方

これまで、中学校卒業生数の減少への対応と高校教育としての適正規模の確保という観点から学校の統廃合や学級減を行ってきましたが、今後も引き続き中学校卒業生数の減少が見込まれていることから、新将来構想期間中においても大幅な学級数の削減が必要になっています。

現在、県立高校1校当たりの学級数が減少し、特に中部地区以外の学校は小規模校化しており、今後の学校配置については、統合を含めた再編が避けられない状況です。そうした中でも、以下の点に配慮しながら、地域の教育的ニーズを十分踏まえ、未来を担う人づくりに適した教育環境や教育内容の整備・充実を図ります。

(1) 地域との関わり

県立高校の再編を進める際には、地域とのつながりの中で再編整備を考えていく視点も重要です。地域における県立高校の存在は、地域ひいては本県の産業振興、まちづくりの在り方や企業誘致や住民の定着への影響といった側面も持ち合わせています。

再編に当たっては、小規模化への対応とともに、より良い教育環境の形成や、各地域における高校の役割や地域の期待等も十分に踏まえながら、計画的な整備に取り組みます。

(2) 機会均等への配慮

今後も生徒減少等に対応し学級数を削減せざるを得ない状況にありますが、再編整備を進めるに当たっては、全県的な視野を踏まえると同時に、地域の交通の利便性並びに通学可能エリアの設置校・設置学科など各地区の実情を勘案しながら、学校・学科等の選択機会の確保に配慮していきます。

(3) 活力維持や教育機能を十分発揮し得る学校規模

十分な教育効果を上げるためのカリキュラム編成や課外活動の充実、また生徒間の多様な個性が触れ合う場や切磋琢磨の機会を確保するなど、学校の活力を維持するためには、ある程度の学校規模が必要です。

しかし、これまで、急激な中学校卒業生数の減少に対応して学級減により対応してきたこともあり、中部地区以外の平均の学校規模は平成21年度で4.1学級と小規模校化しつつあ

ります。このため、生徒の選択機会の確保への配慮と同時に、一定の学校規模の維持を図りながら、学校の活力を維持します。

(4) 市立高校・私立高校との協調した取組

平成 21 年 4 月 1 日現在、県内には公私合わせて 98 校の全日制高校があり、その内訳は県立高校が 73 校、市立高校が 6 校、私立高校が 19 校となっています。県立高校の設置の在り方を考える場合は、市立及び私立高校と協調した取組を進めていくことが必要であり、そのため異なる設置者間で協調しながら中学校卒業生数の減少に適切に対応していきます。

(5) 小規模校の対応

小規模校は、学校全体の一体感といった良さもありますが、カリキュラム編成や部活動などの課題もあります。「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」では本校としての下限について、3 学年の収容定員 240 人とされており、本県においてもこの考えに基づき、1 学年 2 学級規模（80 人）に満たない学校は原則として再編を進めるとしてきましたが、今後もこの学校規模を維持できない場合は、活力ある高校教育の展開、社会資本整備の効率性や地域バランス等の観点から、各地区の実情を踏まえながら統廃合などによる再編整備を進めていきます。

3 地区別の県立高校再編の方向性

本県全体の学科バランスについては、全国平均とほぼ同じバランスとなっていますが、各地区における具体的な高校配置については、前述した学科や学校配置の基本的な考え方を踏まえつつ、全県的な学科の配置バランスと各地区における県立高校に対する期待や産業構造、地域住民の意向等を総合的に勘案しながら対応していきます。また、学校規模が縮小する中で、基本的な学習機会への配慮と教育効果の両面から広域的な学科配置についても留意していきます。

(1) 南部地区

南部地区には、平成 21 年度現在、全日制高校 11 校（分校を含む）、定時制高校が 2 校（分校を含む）設置されており、地区内すべての市と町に高校があります。

学校規模の面では、全日制高校 1 校当たりの平均学級数は 3.9 学級となっており、1 学年 3 学級規模が 2 校、1 学級規模が 1 校（分校）となっています。

学科構成としては、地区の定員全体の約半分を普通科が占め、そのほか、農業、工業、商業、体育、看護など 5 つの専門学科と総合学科を選ぶことができ、他地区に比べ、学科の選択の幅が広い地区となっています。

今後 10 年間の生徒数の動向は、平成 32 年までに約 370 人の中学校卒業生が減少する見込みであり、各校の小規模化が進むことから、地区内の配置バランスを考慮しつつ、地区の産業構造などを踏まえ、特色を活かした高い教育効果が期待できる再編を行うとともに、県南地区に未設置である多部制定時制高校の設置を検討していきます。

(2) 中部地区

中部地区には、平成 21 年度現在、全日制高校 31 校、定時制高校が 5 校設置されており、県内の全日制公立高校の約 4 割が設置されています。

学校規模の面では、全日制高校 1 校当たりの平均学級数は 6.7 学級となっており、1 学年 4 学級以下の学校はありません。

学科構成としては、地区の定員全体の約 8 割を普通科及び普通科系専門学科が占めており、県内で最もその割合が高くなっています。

今後 10 年間の生徒数の動向は、平成 32 年までに約 1,400 人の中学校卒業生が減少する見込みであるものの、他地区に比較して学校数が多く、生徒数減少による影響度合いは少ないと見込まれます。また、他地区に比べ普通科の占める割合が多く、学力向上やキャリア教育の推進など教育内容においてそれぞれの高校の特色化を促進するなど、高校教育の質の向上に取り組みます。

(3) 大崎地区

大崎地区には、平成 21 年度現在、全日制高校 11 校、定時制高校が 2 校設置されており、地区内は旧古川市を挟んで東西に大きく分かれて設置されています。

学校規模の面では、全日制高校 1 校当たりの平均学級数は 3.9 学級となっており、1 学年 3 学級規模が 2 校、2 学級規模が 2 校となっています。

学科構成としては、地区の定員全体の半分を普通科が占め、そのほか、農業、工業、商業、家庭など 4 つの専門学科と総合学科を選ぶことができます。

今後 10 年間の生徒数の動向は、平成 32 年までに約 280 人の中学校卒業生が減少する見込みであり、既に小規模化しているいくつかの高校については、再編を検討していきます。

(4) 栗原地区

栗原地区には、平成 21 年度現在、全日制高校が 5 校設置されています。

学校規模の面では、全日制高校 1 校当たりの平均学級数は 4.3 学級となっており、1 学年 3 学級規模が 1 校となっています。

学科構成としては、地区の定員全体の半分を普通科が占め、そのほか、工業、商業の 2 つの専門学科と総合学科が選択できます。

今後 10 年間の生徒数の動向は、平成 32 年までに約 140 人の中学校卒業生が減少する見込みであり、既に小規模化しているいくつかの高校については、限られた学校・学級数の中で、教育機会と高い教育効果が期待できる規模を考慮しながら再編を検討していきます。

(5) 登米地区

登米地区には、平成 21 年度現在、全日制高校が 5 校、定時制高校が 1 校設置されており、概ね市の中心部に集まった形で設置されています。

学校規模の面では、全日制高校 1 校当たりの平均学級数は 3.6 学級となっており、1 学年 2 学級規模が 2 校となっています。

学科構成としては、地区の定員全体の 6 割を普通科が占め、そのほか、工業、商業、農業

の3つの専門学科が選択できるほか、隣接する栗原地区の総合学科も通学圏となっています。

今後10年間の生徒数の動向は、平成32年までに約130人の中学校卒業生が減少する見込みであり、既に小規模化しているいくつかの高校については、限られた学校・学級数の中で、教育機会と高い教育効果が期待できる規模を考慮しながら再編を検討していきます。

(6) 石巻地区

石巻地区には、平成21年度現在、全日制高校11校、定時制高校が2校（分校含む）設置されており、ほとんどが石巻市の中心および郊外に設置されています。

学校規模の面では、全日制高校1校当たりの平均学級数は4.8学級となっており、1学年2学級規模が1校となっています。

学科構成としては、地区の定員全体の約6割を普通科が占め、そのほか、農業、工業、商業、水産など4つの専門学科を選ぶことができます。

今後10年間の生徒数の動向は、平成32年までに約500人の中学校卒業生が減少する見込みであるものの、他地区に比較して学校数が多く、生徒数減少による影響度合いは少ないと思われます。また、既に小規模化している高校については、再編を検討していきます。

(7) 本吉地区

気仙沼・本吉地区には、平成21年度現在、全日制高校が5校、定時制高校が1校設置されており、三陸沿岸部に点在する形で点在して配置されています。

学校規模の面では、気仙沼高校が7学級規模であることから、全日制高校1校当たりの平均学級数は4学級となっており、1学年3学級規模が3校となっています。

学科構成としては、地区の定員全体の6割を普通科が占め、そのほか、工業、商業、水産の3つの専門学科と総合学科が選択できます。

今後10年間の生徒数の動向は、平成32年までに約320人の中学校卒業生が減少する見込みであり、既に小規模化している高校についても、一段の小規模化が避けられない状況となっています。限られた学校・学級数の中で、さらには、通学距離・時間などの制約下において、教育機会と高い教育効果が期待できる規模の高校をバランス良く配置するよう再編を検討していきます。